

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和2年度分「一部、令和3年度分を含む」)

静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター  
静岡県畜産経営環境技術センター

# 目 次

事務事業の概要	1
1 概 要	1
2 事業の目的、計画、実績（成果）及び評価、改善	4
(1) 総務事務	4
(2) 試験研究の概要	5
(3) 試験研究及び関連事業の実施状況	9
(4) 試験研究成果一覧表	18
(5) 研究成果の広報・普及	33
(6) その他の研究等普及指導・広報活動	36
農林大学校畜産分校・中小家畜分校の概要	38
事業の根拠法令調	39
職員調	40
職員の年齢調	45
健康管理	46
職員配置調	47
歳入予算執行状況調	48
預金調	50
郵便等受払調	51
歳入歳出害現金調	52
歳出予算執行状況調	53
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	59
委託料に関する調	61
負担金支出調	64
建築工事調	66
公有財産調	68
借地借家等調	69
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	70
行政財産貸付・使用許可調	71
普通財産・借受財産等貸付調	71
職員公舎管理状況調	72
備品・図書調	73
主要備品調	77
動物管理状況調	78
生産物受払調	79

# 事務事業の概要

## 1 概要

### (1) 沿革

#### (畜産技術研究所)

- 昭和4年5月 乳牛の改良増殖機関として、沼津市三枚橋に県沼津種畜場を創設
- 昭和25年7月 御殿場市神山の農林省種羊場駿河支場（昭和15年設立）を本県が譲り受け、牛、  
緬羊、豚、鶏の総合種畜場として発足
- 昭和37年4月 総合種畜場を種畜毎に分離改組。種牛部門は酪農試験場として、種畜場跡地に新  
設するとともに、富士宮市内野の現在地に西富士支場を開設
- 昭和40年4月 西富士支場を育成試験場に改称、育成牛放牧、凍結精液生産・配布業務と草地、  
放牧、後代検定等関連研究を推進。畜産講習所は酪農専門研修所に改組
- 昭和47年7月 酪農試験場と育成試験場を統合して畜産試験場と改称。管理、乳牛、肉牛、経営  
の4部制とし、高度な試験研究推進のため諸施設整備の拡充を図り、牛関連研究  
の試験場として発足  
酪農専門研修所は畜産専門研修所と改称
- 平成3年10月 畜産試験場整備事業(昭63~平5)により管理研究棟完成、研究・事務関係移転
- 平成11年4月 農林短期大学校畜産分校は、農林大学校畜産分校に再編
- 平成19年4月 組織再編により畜産試験場、中小家畜試験場を統合し、畜産技術研究所として  
発足。中小家畜試験場を前身として、菊川市に中小家畜研究センターを設立
- 令和3年3月 農林大学校畜産分校は、農林環境専門職大学への移行により廃止

#### (中小家畜研究センター)

- 昭和4年3月 県浜名種畜場（浜名郡中瀬村、現浜松市浜北区）設置、主として種豚、種鶏に関  
する試験研究を開始
- 昭和27年7月 機構改革により、浜名種畜場を県種畜場浜名分場に改組
- 昭和37年4月 養豚部門を養豚試験場（現浜松市浜北区）、養鶏部門を養鶏試験場（掛川市下垂  
木）として、それぞれ新設
- 昭和62年4月 小笠郡菊川町西方（現菊川市西方）に両場を移転統合し、県中小家畜試験場とし  
て発足。併せて、県立農林短期大学校中小家畜分校（養豚科、養鶏科）を設置。  
また、養豚及び養鶏経営の合理化、並びに経営環境の保全を図るため、畜産経営  
環境技術センターを新設
- 平成11年4月 農林短期大学校中小家畜分校は、農林大学校中小家畜分校に再編
- 平成19年4月 組織改正により、畜産試験場と統合し、畜産技術研究所中小家畜研究センターに  
改組
- 令和3年3月 農林大学校中小家畜分校は、農林環境専門職大学への移行により廃止

## (2) 静岡県の畜産の概要

本県の畜産は、優れた生産技術と自然条件や交通立地条件等を活かし、県民に新鮮で安全な畜産物を安定的に供給している。令和元年の本県農業産出額 1,979 億円(前年比 93.3%)に占める畜産の額は 461 億円(前年比 99.4%)で、その割合は 23.3%と本県農業の牽引役となっている。

近年、県内ではクラスター事業を活用した生産性向上や規模拡大の取組が活発で、大規模畜産企業体の参入もあり、従来の家族経営から法人経営へ変化しつつある。また一方で、悪臭に代表される苦情発生件数は横ばい状態であり、畜産堆肥の過剰施肥による水質汚濁も懸念されている。世界的な穀物需給と為替変動等により、飼料を始めとする生産資材価格は高止まり状況である。加えて、TPPやEPA等の貿易協定の合意による国際化に対応できる生産基盤の強化が急務となっている。このように、変化の激しい時代において、生産者からは安心して経営を継続できる技術やビジネスチャンスを見出すための新しい技術が求められている。

このため、本県では「静岡県の新ビジョン」や実施計画である「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)」に加え、「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」、「静岡県酪農・肉用牛生産近代化計画」、「静岡県の家畜及び鶏の改良増殖計画」及び「しずおか食の安全推進のためのアクションプラン」等に基づき、消費者との連携を強め、県民に新鮮で安全な畜産物を安定的に供給することを基本として、畜産の生産基盤の充実と経営体質の強化を図ることとしている。

表1 本県畜産物の産出額 (単位：百万円、%)

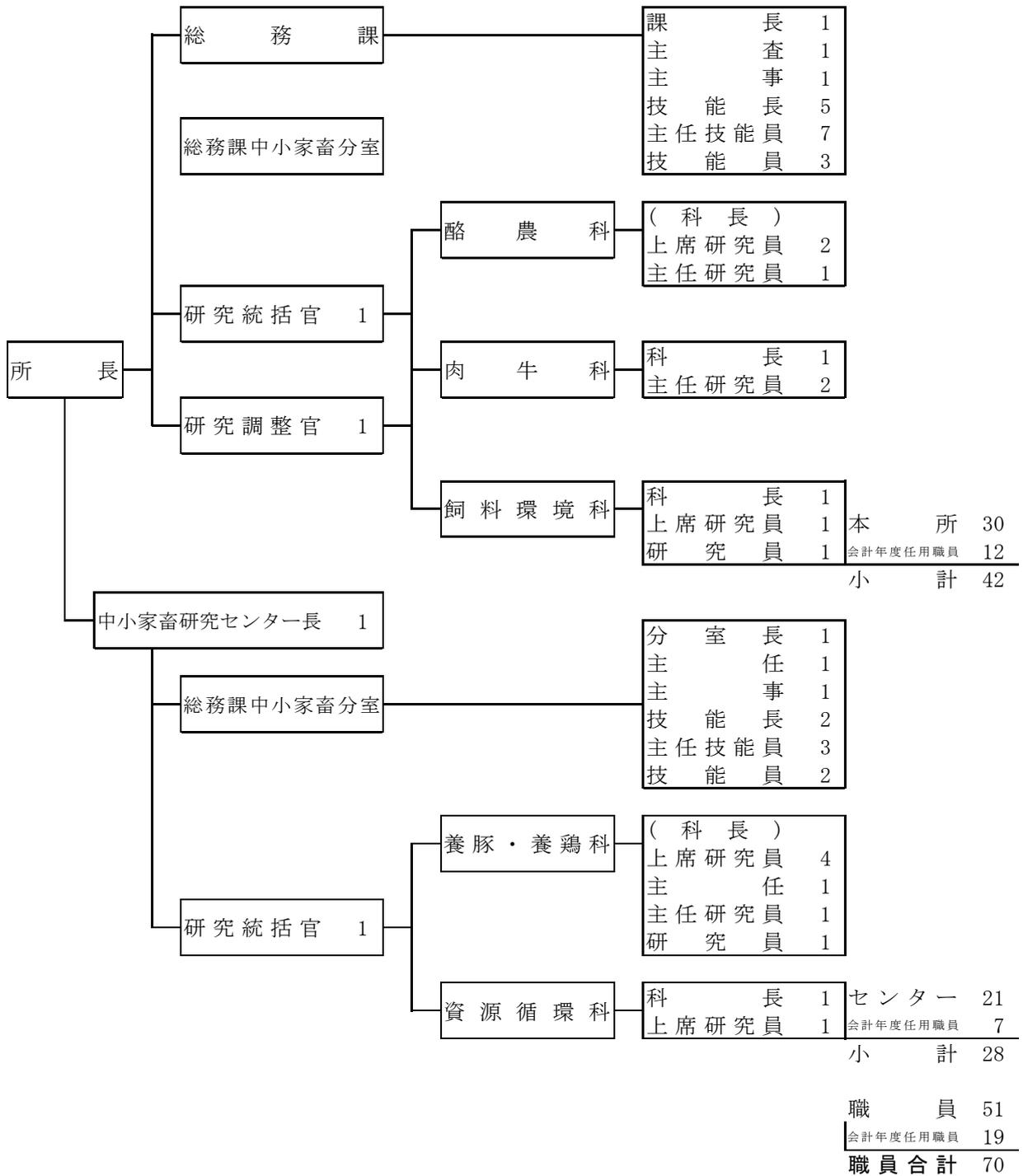
年	乳用牛	肉用牛	豚	鶏	その他畜産物	畜産計(A)	農業合計(B)	畜産のシェア(A/B)
S50	10,837	5,274	30,145	30,154	337	76,747	278,655	27.5
60	15,915	11,198	24,030	28,250	3,093	82,486	342,368	24.1
H10	12,590	5,960	10,080	14,700	2,550	45,880	289,070	15.9
20	10,400	7,500	7,400	11,900	1,700	38,900	228,100	17.1
21	10,700	6,900	5,800	11,500	2,700	37,500	208,600	18.0
22	10,400	7,600	6,000	11,200	2,300	37,500	212,300	17.7
23	9,500	7,300	6,200	13,500	2,600	38,900	212,700	18.3
24	9,900	8,000	6,400	14,600	2,500	41,300	211,400	19.5
25	10,000	7,700	6,600	17,200	3,600	45,100	213,800	21.1
26	10,000	9,000	8,200	19,700	3,300	50,200	215,400	23.3
27	11,000	8,800	7,400	22,000	3,100	52,200	220,400	23.7
28	11,500	8,200	6,300	19,900	3,200	49,000	226,600	21.6
29	11,400	8,100	6,600	19,200	3,200	48,600	226,300	21.5
30	11,300	7,900	6,200	17,700	3,300	46,400	212,000	21.9
R1	11,700	7,600	7,100	16,500	3,200	46,100	197,900	23.3

四捨五入のため表示額と合計額が一致しないことがある

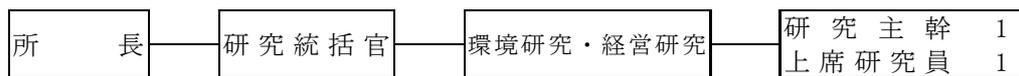
資料：農林水産省生産農業所得統計

(3) 組織図

ア 畜産技術研究所



イ 畜産経営環境技術センター (兼務職員 4人)



※ 所長以下4人全員が中小家畜研究センターと兼務している。

## 2 事業の目的、計画、実績（成果）及び評価、改善

### (1) 総務事務

#### ア 組織及び人事管理

畜産技術研究所の組織は本所、中小家畜研究センターで構成され、令和3年6月30日現在の職員数は本所42名（会計年度任用職員12名を含む。）、中小家畜研究センター28名（会計年度任用職員7名を含む。）である。

職員の配置及び事務分担については、職員の経験・能力、各部署の業務量等を考慮し、適材適所の配置・分担に努めている。

#### イ 予算経理及び財産管理

予算執行に当たっては、適正、迅速な執行に努めている。また、物品・財産管理についても適切な維持管理に努めている。

#### ウ 綱紀の保持と交通事故防止

綱紀の保持と交通事故防止について、毎月1回開催する所内会議を通じて職員への周知徹底を図っている。

なお、当所は公共交通機関の便が悪いため、自家用車での通勤が大半で、加えて業務の性質上、出張は公用車によるものが多い状況にある。

このため、所内会議、定時退庁日メール等を通じて安全運転の周知徹底を図るとともに、「セーフティードライブキャンペーン～チャレンジラリー150～」への参加や「コンプライアンス意見交換会」を通じ、職員一人ひとりの交通安全意識の向上に努めている。

#### エ 健康管理

職員の健康管理については、定期健康診断、人間ドック、成人病検診等の受診はもとより、VDT作業従事者検診、腰痛検診等の特別検診についても積極的に受診するよう指導している。

なお、受診後においても健康管理区分に基づく事後指導に参加させ、職員が自ら健康管理に努めるよう指導している。

また、日頃から積極的にコミュニケーションが図れる雰囲気づくりと気軽に何でも相談できる職場環境づくりに努めている。

#### オ 職員研修

各種研修会・講習会、学会等に積極的に参加させ、職員の資質、知識・技術の向上を図っている。

### [評価・改善]

#### ・交通事故防止

監査対象期間内に公務中の交通加害事故は発生しなかった。

無事故・無違反を目指し、会議や職員への定期メール、「チャレンジラリー150」や「交通安全講習会」への参加などを通じて、職員の交通安全に対する一層の意識の醸成に努めていく。

・労働安全衛生

監査対象期間内に技能員による公務災害が1件、会計年度任用職員による業務災害が2件発生した。

災害ゼロ達成のため、今後もヒヤリハット事例の収集や周知、始業前の安全点検の徹底、作業安全講習の受講、定期職場巡視等、一層の安全の確保に努めていく。また、牛の管理作業、機械作業においてヘルメットの着用、安全長靴の着用が必要な業務・場所等を明確に文書化し、着用を義務付けた。

また、時間外勤務の縮減と休暇取得の促進を図り、職員の健康管理に努めていく。

・その他

職員の処分事案が2件発生した。

綱紀の厳正保持と作業の適正な実施について、注意喚起・徹底に努めていく。

## (2) 試験研究の概要

### ア 試験研究の基本方針と技術開発の目標

畜産技術研究所では、「静岡県経済産業ビジョン2018～2021（農業・農村編）」の目標達成に向け、「静岡県の試験研究機関に係る基本戦略」に基づき、以下の5つを2021年度までの研究開発の重点方向とする。

- ① 大規模経営体への対応
- ② 畜産環境対策
- ③ 安全性、生産性向上
- ④ ブランド力向上
- ⑤ 新産業の創出

### イ 試験研究推進体制

一般試験研究課題の設定は、農協、生産者団体、行政機関等から「研究要望カード」として、常時、研究要望を受付けている。寄せられた研究要望は、地域重要性、関連技術等を所内検討した上で、課題化が必要と判断されたものは研究計画案を作成し、所内研究推進会議（研究アドバイザーの指導・評価）、試験研究機関外部評価委員会（有識者指導・評価）、試験研究調整会議の各段階の承認後に初めて試験研究課題となる。また、実施中及び終了した試験研究課題についても、前述の評価を受ける等、研究の効率化を目的としたPDCAサイクルが徹底実施されている。

新成長戦略研究課題については、政策課題の技術的解決を目的として、畜産振興課等の本庁各課と研究課題を設定し、試験研究調整会議における選抜を経て試験研究課題化され、前述同様のPDCAサイクルで目標管理しながら県民の付託に応えている。

ウ 研究推進会議の開催状況

所内検討のための研究推進会議を開催し、計画・実施するすべての課題の検討を行う。適正な検討を行うため、畜産技術研究所長は畜産有識者に意見を求め、研究の適正化を図っている。

<推進会議開催状況>

(令和2年度)

区 分	開催日	開催内容	指導者
第1回研究推進会議	7月6日	令和3年度に開始する新規試験研究課題(一般研究課題)を対象に検討。	大学名誉教授、准教授、農林事務所部長
第2回研究推進会議	1月25日	令和2年度実施中の研究課題の中間評価、令和2年度完了課題の事後評価、終了後1年経過した課題の追跡調査を対象に検討。	大学名誉教授、准教授、農林事務所部長

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

区 分	開催日	開催内容	指導者
第1回研究推進会議	6月30日	令和4年度開始新規試験研究課題(一般研究課題)の検討。	大学名誉教授、教授、農林事務所部長
第2回研究推進会議	1月下旬(予定)	令和3年度実施中の研究課題の中間評価、令和3年度完了課題の事後評価、終了後1年経過した課題の追跡調査を対象に検討。	大学名誉教授、教授、農林事務所部長

エ 試験研究要望課題等の処理状況

(令和2年度)

区 分	研究要望カード数			要望課題の処理状況				
	県関係からの要望	農林業団体・生産者等からの要望	計	採 択		不 採 択		
				新規課題設定	既存課題対応	実態把握	現地指導情報提供	その他 <sup>注1</sup>
乳 牛	0	1	1	0	0	0	0	1
肉 牛	0	1	1	0	0	0	1	0
豚	0	1	1	0	0	0	1	0
鶏	0	1	1	1	0	0	0	0
飼 料	0	2	2	0	0	0	0	2
環 境	0	2	2	0	1	0	1	0
その他 <sup>注2</sup>	0	4	4	1	0	0	0	3
計	0	12	12	2	1	0	3	6

注 1) その他は、「現状では課題化が困難」、「事業的業務」、「その他」に該当する要望事項

2) 区分の欄のその他は、複数の畜種を対象にした要望事項

オ 試験研究の重点技術開発目標別研究課題数

(令和2年度)

研究開発の重点方向	本 所	センター
大規模経営体への対応	2(3)	0
畜産環境対策	2(3)	3(5)
安全性、生産性向上	6(8)	3(8)
ブランド力向上	2(3)	2(5)
新産業の創出	0	2(3)
計	12(17)	10(21)

年度期首の課題数	12	9
当該年度の完了課題数	5	3
翌年度新規課題数（評価会承認課題数）	1	1

うち新成長戦略研究課題 本所2課題、中小2課題

(令和3年度)

研究開発の重点方向	本 所	センター
大規模経営体への対応	2(4)	0
畜産環境対策	1(2)	3(4)
安全性、生産性向上	6(8)	2(6)
ブランド力向上	2(4)	2(3)
新産業の創出	0	2(3)
計	11(18)	9(16)

年度期首の課題数	11	9
当該年度の完了課題数	5	4
翌年度新規課題数（評価会提出課題数）	2	3

うち新成長戦略研究課題 本所1課題、中小2課題

( ) は当該年度実施細目課題数

## カ 試験研究の評価

産業イノベーション推進課が開催する外部評価委員会において、研究課題の計画の妥当性、進捗状況及び研究

の成果等について評価を受ける。

### <評価の種類>

- ・事前評価：翌年度の新規研究課題の内容を外部評価委員が評価する。
- ・中間評価：研究課題の進捗状況や研究継続の必要性等を研究期間の中間年度に評価する。
- ・事後評価：研究期間が終了する研究課題の目標達成度や成果等を評価する。
- ・追跡評価：研究終了後1年を経過した研究課題の成果波及効果等を評価する。

### ○ 一般試験研究課題

(令和2年度)

区 分	開催日	評価の種類	対象課題数	内訳
第1回評価委員会*	7月31日	事前評価	2	・本所1、中小1
分野会	9月8日	事前評価	2	・本所1、中小1
第2回評価委員会*	2月9日	中間評価 事後評価 追跡評価	17	・中間7、事後5、追跡5

※外部評価委員15名のうち3名が評価

### ○ 新成長戦略研究課題

(令和2年度)

区 分	開催日	評価の種類	対象課題数	評価結果
現地指導(本所) ※2	7月20日	中間評価	1	R2 終了課題進捗管理
第1回研究調整会議	7月29日	事前評価	0	R3 開始予定課題一次選抜
事前評価会*1	9月14日	事前評価	0	R3 開始予定課題外部評価
第2回研究調整会議	10月29日	事前評価	0	R3 開始予定課題
現地指導(本所) ※2	11月16日	中間評価	1	R2 実施課題進捗管理
現地指導(中小) ※2	11月30日	中間評価	2	R2 実施課題進捗管理
追跡評価会*1	1月19日	追跡評価	2	H29、30、R1 終了課題 (本所2課題)
事後評価会*1	2月22日	事後評価	1	R2 終了課題
中間評価会*1	3月1日	中間評価	3	R2 実施課題(本所1、中小2)

※1 外部評価委員15名による評価、※2 外部評価委員15名のうち3名が評価

令和3年度は6月30日現在、未実施。

### [評価・改善]

研究課題立案にあたっては、生産者・消費者・流通事業者等から広く意見・要望を聴取し、県民生活向上に貢献する内容となるよう注力していく。

### (3) 試験研究及び関連事業の実施状況

#### ア 酪農科

##### (ア) 研究方針と研究課題

###### <研究方針>

当所の持つ優れたセンシング技術に関する知見を活用し、繁殖性改善・疾病の制御・低コスト化・生産性向上に向けた技術開発に取り組む。

###### <研究課題> (( ) 内は実施年度、○印は重点研究課題)

- a 3D画像による牛の体重・自動計測システムの開発 (H30-R3)
- b 体圧センサーを活用したウシ分娩検知システムの開発 (H30-R2)
- c 人工授精後の卵巣動態に基づいた受胎率向上技術の検討(R元-R3)
- d 深層学習を用いた画像解析による牛群中での子牛の疾病検知システムの開発 (R3-R5)

###### [評価・改善]

ほとんどの研究課題を企業や外部研究機関と協力して実施しており、研究の加速化や成果の実用化の推進が図られている。とくに研究課題dについては、工技研や大学を交えた三研究機関の共同研究で外部資金を獲得するなどの取組も行っている。令和3年度も同様に研究を推進する計画である。

##### (イ) 関連事業等

- a 家畜改良増殖対策事業(牛群検定普及定着化) (R2)418千円 (R3)418千円

乳用牛群検定の普及率向上及び定着化を図るため、(一社)家畜改良事業団のデータを利用して、検定成績の分析を行い、検定実施農家に対して指導を実施している。

###### [評価・改善]

検定実施農家飼養牛の乳量、乳成分、繁殖成績から、疾病の有無や飼養管理の問題点を推定し、改善方法の指導を行っている。令和2年度は県内酪農家31戸に指導を実施した。

- b 試験牛飼養事業(乳牛) (R3)37,420千円

試験研究に利用する乳用牛の飼養管理・生産技術の実証を行う。

###### [評価・改善]

試験研究用の乳用牛を飼養し、着実な試験研究を推進するとともに、最新の生産技術を実証展示した。

#### イ 肉牛科

##### (ア) 研究方針と研究課題

###### <研究方針>

遺伝子解析技術および受精卵移植技術等を活用し、本県の持つ優れた肉牛生産技術の一層の発展を支援する。

<研究課題> (( ) 内は実施年度、○印は重点研究課題)

- a 新たな遺伝子能力評価手法を用いた優良和牛子牛の効率的生産(H29-R3)
- b 酒粕給与による肥育技術の研究(H30-R2)
- c リアルタイム遠心分離法による牛疾病迅速診断技術の検討 (R元-R3)

[評価・改善]

研究課題については概ね計画に沿った取り組みができた。とくに研究課題 a については、和牛受精卵供給事業により、県内の優良和牛子牛を増産する取組を行っている。令和3年度も同様に研究を推進する計画である。

(イ) 関連事業等

- a 家畜改良推進事業(遺伝的能力向上対策) (R2)975千円 (R3)878千円

県内で飼養される肉用の繁殖用雌牛(黒毛和種)の遺伝的改良を進めるために、出荷される肥育牛の枝肉データや血統データを収集・分析し、血縁関係のある繁殖牛の遺伝的能力評価指標である育種価を求め、それらを基にした改良情報等を農家に提供している。

令和2年度は、県内から出荷された肥育牛23,328頭の情報をもとに、県内で現在供用されている繁殖用雌牛200頭の育種価を算出し、それらを飼養する農家33戸に対して改良情報等を提供した。

[評価・改善]

個別データをもとに育種価を算出し、農家指導に利用している。平成20年度より、肥育農家の同意を得て肉用牛枝肉情報全国データベースを活用し、育種価評価を実施しており、育種価判明頭数は順調に増加している。

- b 受託放牧育成事業 (R2)6,999千円 (R3)6,999千円

研究の一環として、放牧牛を受託し、放牧や繁殖関係の研究を行っている。指定管理者制度の導入により、平成18年度以降、公益社団法人静岡県畜産協会と委託契約を締結し、次のとおり預託牛を放牧育成した。

○放牧育成頭数 ※令和元年度からの繰越頭数49頭 (令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 牧	0	0	0	0	0	0	0	16	16	18	0	0	99
退 牧	1	0	0	0	6	7	14	10	0	6	1	4	49
在场頭数	48	48	48	48	42	35	21	27	43	55	54	50	50

○放牧育成頭数 ※令和2年度からの繰越頭数50頭 (令和3年度6月30日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 牧	0	0	0										50
退 牧	1	1	5										7
在场頭数	49	48	43										43

[評価・改善]

令和2年度は、受託した育成牛50頭のうち、44頭が人工授精、4頭が自然交配で受胎し、2頭は、畜主の希望により人工授精を実施せずに年度内退場した。受託牛1頭あたりの平均受託期間325.6日、期間中増体量0.90kg/日であった。今年度は、4月上旬より放牧を開始しており、衛生検査を月2回行い、発育・健康状態の確認及び繁殖管理を実施している。

c 家畜改良推進事業(家畜人工授精師養成講習会)

農林大学校学生及び県内畜産従事者等を対象に、家畜改良増殖法に基づく家畜人工授精師(牛・豚)の養成講習会(期間:4週間)を下記のとおり行った。

年度	区分	受講者	合格者
R2	家畜人工授精師(牛・豚)	10名	10名

((注) 令和3年度は令和3年8～9月実施予定)

[評価・改善]

令和2年度の受講者内訳は、農林大学校学生10名(牛:8名、豚:2名)全員が合格した。令和2年度より農林大学校から専門職大学に移行することから、令和3年度は専門職大学学生と一般受講者を対象に講習会を開催する予定である。

d 和牛受精卵供給事業

(R2)2,039千円 (R3)5,091千円

令和2年度より、静岡県和牛改良推進協議会を通じて、遺伝的能力の高い和牛受精卵を県内酪農家に供給し、乳牛を利用して優良和牛子牛を増産し、県産和牛の安定生産を図るために、所内で飼養している黒毛和種繁殖牛より受精卵を採卵している。

[評価・改善]

令和2年度の受精卵採卵実績は、黒毛和種繁殖牛13頭から85個の受精卵を採卵し凍結保存した。今後、協議会を通じて県内の酪農家に供給する予定である。

e 試験牛飼養事業(肉牛)

(R3)12,099千円

試験研究に利用する肉用牛の飼養管理・生産技術の実証を行う。

[評価・改善]

試験研究用の肉用牛を飼養し、着実な試験研究を推進するとともに、最新の生産技術を実証展示した。

ウ 飼料環境科

(ア) 研究方針と研究課題

<研究方針>

大家畜経営を行う上で重要となる自給飼料生産技術や家畜排せつ物の処理技術について、当所の持つ広大な草地を活用した技術開発に取り組む。

<研究課題> (( ) 内は実施年度○印は重点研究課題)

- a 牧草飼料作物の品種選定に関する試験 (S52-)
- b 飼料作物奨励品種選抜試験 (S57-)
- c 気象リスクに対応した安定的な飼料作物生産技術の開発 (H30-R2)
- d 農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発 (R 元-R5)
- e 牧草地・飼料畑除草剤実用化試験 (R2-)
- f 生産基盤拡大に繋がる家畜ふん尿の乾燥及びエネルギー転換技術の開発「新成長戦略研究」(H30-R2)
- g バルクブレンド肥料原料に利用可能な牛ふん堆肥の粒状化技術の開発 (R2-R4)
- h マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発「新成長戦略研究」(R2-R4)

[評価・改善]

研究課題については概ね計画に沿った取り組みができた。研究課題 h 「マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発 (R2-4)」では、海洋由来の乳酸菌を用いた乳製品の開発や牧草保存用乳酸菌製剤の開発に向けた研究に取り組んでいる。また、今後も研究計画目標の達成と成果の普及・活用に向け、生産現場に向けたアピールを行う。

(イ) 関連事業等

- a 飼料生産推進事業(飼料自給率向上推進) (R2) 49 千円 (R3) 49 千円  
 大家畜経営の基礎となる自給粗飼料の効率的生産・調製・貯蔵および利用技術の普及を行うとともに飼料分析事業を推進し、農家における飼料給与技術指導を行った。

○ 自給飼料分析指導部門での粗飼料分析状況 (令和3年6月30日現在) (単位: 件)

粗飼料の種類	令和2年度	令和3年度	備考
コーンサイレージ	31	0	
ソルガムサイレージ	4	0	
グラスサイレージ	17	2	
牧 乾 草	1	0	
稲 W C S	3	0	
合 計	56	2	

[評価・改善]

当所は自給飼料分析センターとして位置づけられており、自給飼料を生産・利用する畜産農家の飼料の評価及び指導を行って農家の要望に対応するとともに、農林事務所が実施する普及課題の推進に協力した。

- b 試験牛自給飼料生産事業 (R2) 8,648 千円 (R3) 9,210 千円  
 所内試験牛および受託放牧牛の自給粗飼料生産・調製を行い、粗飼料の確保を図るとともに、自給粗飼料生産の実証展示を行った。

## ○ 自給粗飼料生産量

(令和3年6月30日現在) (単位:t)

区分 利用形態	令和2年度		R元年度 対比(%)	令和3年度		備 考
	生草換算量	生産量		生草換算量	生産量	
放 牧 生 草	250	150	87	147	88	
地下サイレージ (グラス)	430	301	77	117	82	
ロールサイレージ (コーン)	279	195	66	—	—	
ロールサイレージ (グラス)	663	398	122	253	152	
合 計	1,622	1,044	89	517	322	

\*生草換算量算式：放牧生草＝生産量÷0.6、地下サイレージ(グラス)＝生産量÷0.7、ロールサイレージ(コーン)＝生産量÷0.7、ロールサイレージ(グラス)＝生産量÷0.6

## [評価・改善]

当所産粗飼料の自給率は、例年概ね80%である。令和2年度の自給粗飼料生産量は、前年度(令和元年度)よりも11%減少した。永年牧草は平年並みであったが、コーンは湿害と台風被害を受けたため大幅な減収となった。今後も草地の肥培管理を徹底し、高栄養多収作物の栽培面積を確保して栄養収量の確保に努める。

## c 資源循環型畜産推進事業(家畜排せつ物利活用促進対策) (R2)15千円 (R3)15千円

家畜ふん堆肥の広域的な流通を促進するため、家畜ふん堆肥の成分分析を実施し、堆肥生産者及び利用者への技術指導を行った。

## ○ 牛ふん堆肥簡易診断システム堆肥分析状況

(令和3年6月30日現在) (単位:件)

堆肥の種類	令和2年度	令和3年度	備 考
乳 牛	20	0	<分析項目> 水分・pH・EC・残留農薬等
肉 牛	13	0	
そ の 他 の 堆 肥	11	0	
合 計	44	0	

## [評価・改善]

耕畜連携の強化に資するため、畜産農家が生産する堆肥の成分分析を行ってきた。令和元年度をもって静岡県畜産堆肥共励会が終了したため、今後は堆肥の過剰施用に対する技術指導や作物に対する安全性の確保を重点に、農林事務所・家畜保健衛生所と協力しながら生産者の要望に対応していく。

## d 農薬適正使用管理体制強化事業(肥飼料指導費)

(R2)64千円 (R3)59千円

広域に流通する飼料の安全性と品質を確保するため、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」及び「農薬取締法」に基づき、家畜保健衛生所が行う立入検査に協力した。また、飼

料の分析体制維持に必要な技術を確保するため、全国飼料品質改善協議会が実施する共通試料による分析鑑定に参加した。

[評価・改善]

家畜保健衛生所が行う立入検査に随時協力すると共に、飼料の分析体制維持に必要な技術の確保に努める。

- e 畜産物流通推進事業(畜産振興推進事業) (R2)8千円 (R3)8千円  
大規模畜産農家の経営安定のための技術指導及び静岡県草地畜産振興連絡協議会が行う事業に対する助言指導を実施した。

[評価・改善]

畜産技術や経営に関する情報収集及び技術開発に努め、最新の情報を用いて指導を実施する。

エ 養豚・養鶏科

(ア) 研究方針と研究課題

<研究方針>

遺伝子解析等の技術により、種豚・種鶏の開発と付加価値の高い豚肉・鶏肉の生産技術の確立を進める。また、ヒトの医療へ貢献するものとして医療用に特化した実験ブタの実用化を進める。

<研究課題> (( ) 内は実施年度、○印は重点研究課題)

- a S P Fデュロック種系統豚の維持 (H28-R2)
- b 太陽光を利用した鶏舎内冷房の検討 (R元-R2)
- c フジキンカの交配方法検討による生産性向上 (H30-R4)
- d 多産系ランドレースを用いた養豚生産効率の向上 (R元-R5)
- e S P F大ヨークシャー種「フジヨーク2」の維持と能力調査 (R2-R6)
- f 駿河シャモ系統の長期維持を図る育種改良と始原生殖細胞の保存 (R3-R7)
- g 再生医療に貢献する無菌ブタとその飼育システムの開発「新成長戦略研究」(H29-R3)
- h Rabファミリー低分子量G蛋白質の遺伝子改変による越境性動物疾病抵抗動物の開発 (R2-R4)

(評価・改善)

研究課題については、概ね計画に沿った取り組みができた。医療用実験ブタに関しては、「新成長戦略研究」および科研費により課題に取り組んでいる。令和3年度以降も、継続的に研究を推進する計画である。

(イ) 関連事業等

a 銘柄豚供給事業

センターは、昭和62年から全国に先駆けてSPF豚(特定病原菌不在豚)による系統造成を開始した。平成22年に「フジヨーク」(大ヨークシャー種)の後継系統豚の「フジヨーク2」が系統造成豚として認定され、平成28年度には「フジロック」(デュロック種)の

後継系統豚として産肉性を強化した「フジロック 2」が認定され、平成 29 年度から供給を開始した。センターでは「フジヨーク 2」と「フジロック 2」を静岡型銘柄豚普及推進協議会に供給し、静岡型銘柄豚「ふじのくに」の生産を普及推進している。

また、「フジロック」と金華豚の長所を併せ持った高品質豚肉である「フジキンカ」を作出し、平成 22 年 6 月から原種豚や種豚を静岡県フジキンカ普及推進協議会へ供給している。

フジヨーク 2・フジロック 2・フジキンカの維持及び売り払い状況

(令和 3 年 6 月 30 日現在)

銘柄名	開発時期	センターで 保有する 原種の頭数	売払状況					
			令和 2 年度			令和 3 年度		
			種豚		精液	種豚		精液
			戸数	頭数	本数	戸数	頭数	本数
フジヨーク 2	平成 22 年	おす 15 頭 めす 30 頭	4	10	26	1	5	12
フジロック 2	平成 28 年	おす 10 頭 めす 30 頭	8	17	281	4	11	77
フジキンカ	平成 22 年	おす 5 頭 めす 10 頭	3	42	56	3	13	0

(評価・改善)

「フジヨーク 2」は静岡型銘柄豚生産母豚の基礎豚として、「フジロック 2」は同銘柄豚生産雄豚として計画的に配布されている。

静岡型銘柄豚は、令和 2 年度の認定生産農家が 5 戸、認定販売店が 62 店舗、銘柄豚の生産頭数が約 10,000 頭である。今後も、銘柄豚生産農家の拡大と、静岡県の種豚生産の素材豚としての利用を進めていく。

フジキンカは高級豚肉として高い評価を受けており、令和 2 年度では 4 生産グループで約 2,000 頭が出荷されている。

b 銘柄鶏供給事業

センターは、特色ある畜産物として、平成元年に肉質の優れた特産鶏「駿河シャモ」を作出し、静岡県駿河シャモ振興会へ供給している。

駿河シャモの維持及び売り払い状況

(令和 3 年 6 月 30 日現在)

銘柄名	開発時期	センターで 保有する 原種の羽数	売払状況			
			令和 2 年度		令和 3 年度	
			戸数	羽数	戸数	羽数
駿河シャモ	平成元年	おす 50 羽 めす 300 羽	4	6,550	4	1,660

(評価・改善)

静岡県駿河シャモ振興会会員の飼育計画に基づき計画的に供給し、銘柄鶏「駿河シャモ」の振興に寄与している。現在、飼育農家は4戸で、高級食材として県内外の料理・飲食店等からの要望が多く、令和2年度は6,550羽を出荷した。

ブロイラーに比べて生産性が低く、肉質にこだわった特産鶏であるため、規模拡大や大規模農家の参入が難しい面があるが、特徴のある地鶏の生産振興を支援していくため、振興会へ安定的な種卵の供給に努めていく。

c 実験用ブタ供給事業

静岡県は大ヨークシャー種の子豚を、専用の施設、管理方法で飼育した実験用ブタ「SHIZUOKA EXPIG (シズオカエキスピック)」(商標出願中)を開発した。令和元年度から県内実験動物企業を通じて県内外へ供給している。なお、種豚は上記フジヨーク2と共通である。

SHIZUOKA EXPIG の維持及び売り払い状況

(令和3年6月30日現在)

銘柄名	開発時期	センターで 保有する 原種の頭数	売払状況	
			令和2年度	令和3年度
			頭数	頭数
SHIZUOKA EXPIG	令和元年	おす 15頭 めす 30頭	42	15

(評価・改善)

豚熱による国内での豚の流通制限や新型コロナウイルス感染症の影響による需要の停滞はあるが、医科系大学を中心に購入希望が多い。将来的に民間企業に生産を移譲するなどにより、供給拡大を進める計画である。

オ 資源循環科

(ア) 研究方針と研究課題

<研究方針>

悪臭低減技術等の畜産環境対策技術を開発する。

<研究課題> (( ) 内は実施年度、○印は重点研究課題)

a 養豚排水処理施設におけるアナモックス反応による窒素除去の適応 (H30-R2)

○b 無臭養豚管理技術の開発に関する研究「新成長戦略研究」(R元-R3)

c 活性汚泥処理の最適化と新規窒素除去反応アナモックスの利用による畜産廃水処理技術の高度化 (R元-R3)

d 再利用性の高い量産型茶殻脱臭剤の開発 (R2-R3)

(評価・改善)

研究課題については、概ね計画に沿った取り組みができた。本年度は、「新成長戦略研究」で取り組んでいる臭気対策に重点を置いて研究を推進する。アナモックス菌の研究に関しては、(国研)農研機構と連携して研究を推進している。

カ 畜産経営環境技術センター

畜産経営環境の保全等を推進するため、堆肥化・排水処理施設整備の技術支援、良質堆肥生産技術の向上、悪臭等の畜産環境問題の解決に向けた技術支援指導を実施してきた。

令和2年度は野生イノシシにおける豚熱の流行等により、農家への訪問指導は実施しなかったが、電話・メールでの技術指導を実施した。

○ 技術指導等の実績 (令和2年6月30日現在)(単位:件)

区 分	令和2年度	令和3年度	備 考
施設整備に係る技術支援	0	0	
市開催畜産環境協議会での技術指導	2	1	袋井市

キ 試験研究企画調整 (R3)1,074千円

畜産技術研究所(本所・センター)の試験研究課題の的確な設定および推進をするために、試験研究の企画調整、進捗管理を実施している。

(4) 試験研究成果一覧表

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

本所 (令和2年度終了課題)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
大規模経営 体への対応	体圧センサーを活用したウシ分娩検知システムの開発  ・分娩検知プログラムの確立 ・センサーの耐久性向上と周辺システムの開発	終了	共同	H30-R2  (H30-R2)  (H30-R2)	中空チューブを用いて試作したウシ分娩検知システムの市販化を目的とした実証を行い、分娩にともなう夜間監視などの過重労働の解消と分娩事故の低減を図る。	分娩房に設置して用いている分娩検知システムについて、検知プログラムにAIを用いることで、誤報知が減少した。現在、ストール用の分娩検知システムを開発。	製品化を目指して、周辺システムの感度試験、体圧センサーの耐久性試験等を県内酪農家にて実施中である。	有  共同 出願 2017- 175462	(35,235) 13,912	—	富士工技 セ 民間 企業
畜産環境対 策	生産基盤拡大に繋がる家畜ふん尿の乾燥及びエネルギー転換技術の開発  ・新しい家畜ふん乾燥システムの開発 ・乾燥家畜ふんのエネルギー利用技術の開発	終了	共同	H30-R2  (H30-R2)  (H30-R2)	県内で問題となっている家畜ふんの処理・利用を図るため、新しいエネルギー利用技術を開発する。	乾燥促進剤・太陽熱の利用・攪拌・通風を組み合わせることにより、乳牛ふんの乾燥にかかる期間を従来の1/3に短縮することができた。木質チップと同等の発熱量が得られ、バイオマスボイラーの燃料として使用することが可能であった。	燃料化及び流通・利用を行う予定の企業等に技術の普及を図る。	無	(29,578) 4,424	—	新成長 民間 企業

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

本所 (令和2年度終了課題)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
安全性、生産 性向上	酒粕給与による肥 育技術の検討  ・酒粕の機能性成 分の解析 ・酒粕の保存・給 与方法の検討 ・肥育牛への酒粕 の給与試験	終了	単独	H30-R2  (H30-R 元)  (H30-R2 )  (H30-R2 )	県内酒造メーカーから排出される日本酒粕の有効利用を図るため、含有する有用成分が肥育牛に与える影響を解析する。	酒粕を給与した牛で摂餌量が多い傾向があり、その結果、1日当りの増体量が多く、枝肉重量に優れていた。 試験管内で行った消化試験の結果、酒粕の粗飼料消化性向上効果が認められ、その効果は6ヶ月間常温保存した場合でも維持された。 官能評価では、口溶けが良く柔らかいという結果となった。	酒粕給与効果を評価し、県内肉牛農場に普及することで、県産ブランド牛の特徴付けを図る。	無	(16,112) 7,733	—	
安全性、生産 性向上	気象リスクに対応した安定的な飼料作物生産技術の開発	終了	国庫	H30-R2	トウモロコシ・ソルガムを活用した複数の夏型飼料作物の作付け体系を組み合わせることで、台風被害等を低減可能な飼料生産体系および収穫適期前に刈取が行われる場合の水分調整技術を開発する。	極早生品種の利用により、台風襲来前にトウモロコシを収穫することが可能であった。また、早期収穫時の水分調整により廃汁発生の養分ロスを減らすことができた。	農林事務所との連携により、開発された作型を自給飼料生産農家に普及して自給飼料の増産を図るとともに、飼料費低減による畜産経営の安定に資する。	無	(3,480) 1,055	—	経営体 (気象 リスク 飼料) コンソ ーシア ム

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
大規模経営 体への対応	3D画像による牛 の体重・自動計測 システムの開発  ・牛の3D画像自 動撮影装置の開 発 ・3Dデータを活 用した牛の体 重・自動計測プ ログラムの開発	継続	共同	H30-R3  (H30)  (R元-R3)	3D画像データか ら牛の体重を推定 するシステムの自 動化及び精度向 上技術を開発し、 周産期疾患の低 減と生産性の向 上を図る。	牛舎通路の上方に3 Dカメラを取り付 け、体重推定に必 要な画像データを自 動で取得するシス テムを開発した。 本試験の3Dカメラ が製造中止となっ たことから市販さ れている汎用性の 高い3Dカメラに よる使用可能と なった。	汎用性の高い カメラで撮影 した画像を基 に体重を推定 するソフトを 企業と連携し て開発を進め 、普及を図る。	無	(20,319) 12,529	(33,682) 13,363	専門 職大 学 民間 企業
大規模経営 体への対応	深層学習を用いた 画像解析による牛 群中での子牛の疾 病検知システムの 開発  ・映像解析によ る子牛個体の異 常検知手法の検 討 ・群飼育環境に おける子牛の個 体識別方法の検 討 ・群飼育環境に おける子牛の 異常検知方法 の確立	新規	国庫 共同	R3-R5	子牛の代表的な疾 病である下痢、呼 吸器疾患を対象と して、深層学習を 用いた映像解析を 行い、群飼育下 における非拘束か つ簡便な異常検 知システムの構 築を開発する。	—	—	無	—	(780) 780	富士 工技 セ 日本 工業 大学

試験研究成果一覧表

本所 (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
畜産環境対策	バルクブレンド肥料原料に利用可能な牛ふん堆肥の粒状化技術の開発	継続	共同	R2-R4	堆肥を造粒・乾燥して化成肥料と混合したバルクブレンド肥料の原料となる粒状堆肥の開発を行い、広域流通させることで余剰牛ふん堆肥の解消を図る。	造粒時の含水率や造粒装置の回転速度が造粒結果に影響することが確認された。	造粒技術は大規模農家や共同堆肥工場に普及を図り、製品は共同研究先の販売網を通じて流通させる。	無	(2,438) 2,3438	(3,628) 1,189	農林技 研 民間企 業
安全性、生産性向上	飼料作物奨励品種選抜試験	継続	単独	S57-	優良品種の選定試験を行い、県奨励品種の早期普及を図る。	トールフェスク3系統について実施している。	成績の良好な品種を今年度末に「静岡県飼料作物奨励品種」に選定し、県内への普及を図る。	無	(29,460) 3,61	(31,945) 2,485	

試験研究成果一覧表

本所 (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
安全性、生産 性向上	人工授精後の卵巣 動態に基づいた受 胎率向上技術の検 討  ・卵胞の形成位置 及び大きさと受 胎率との関係性 ・排卵誘発剤投与 による受胎率向 上技術の検討	継続	単独	R元-R3  (R1)  (R2-3)	人工授精後に形 成される卵胞が受 胎率に与える影響 を調査し、改善技 術を開発すること で、乳牛の生産効 率を向上させる。	受胎率は、黄体の径、 面積、輝度及び卵胞 の径、同側と反対側 間で有意差はなかつ た。 同側の卵胞除去群で の受胎率は66.7%、 無処置群で39.1%、 反対側では33.3%、 無処置群で45.5%で あり、有意な差は認 められていない。	県内で人工授 精業務を行う 獣医師及び人 工授精師に情 報提供し、特に 性判別精液の 経産牛におけ る受胎率を未 経産牛と同レ ベルとする。	無	(27,375) 16,037	(28,106) 731	
安全性、生産 性向上	リアルタイム遠心 分離法による牛疾 病迅速診断技術の 検討  ・小型ピロプラズ マ病の迅速診断 技術の開発と治 療指針の策定 ・炎症性疾患検出 の検討	継続	単独	R元-R3  (R1-R3)  (R1-R3)	人の臨床分野で 研究されているリ アルタイム遠心分 離法を応用し、経 済損失が大きい牛 の小型ピロプラズ マ病、炎症性疾患 の迅速診断技術 の検討を行う。	リアルタイム遠心分 離法により、迅速に 低比重赤血球量が測 定可能であり、PCV値、 ピロプラズマ寄生率 及びMCV値との相関を 確認した。貧血の病 勢判定として利用で きること、RT法で 迅速に赤血球沈降速 度を測定できる可能 性が示唆された。	学術論文や関 係者への積極 的な情報提供 により成果の 普及を図る。	無	(8,644) 5,008	(9,102) 458	

試験研究成果一覧表

本所 (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
安全性、生産 性向上	牧草飼料作物の品 種選定に関する試 験 (系統適応性試験)	継続	国庫	R2-R4	県外指定試験地 で育成された牧草 系統の地域適応 性を検討する。	イタリアンライグラ ス4系統について実 施している。	検定後、優良系 統については 新品種として 農林登録され 国産品種とし て市販される 予定である。	無	(300) 150	(450) 150	
安全性、生産 性向上	農業被害をもたら す侵略的外来種 の管理技術の開発  ・アレチウリの発 生実態及び分 布拡大様式の 解明と侵入レ ベルに応じた防 除体系の構築	継続	国庫 共同	R元-R5  (R元-R5)	特定外来生物アレ チウリの生態につ いて、地域内変異 や攪乱の影響を調 査する。また、薬 剤に頼らない防除 法の探索を行う。	所内および所外の アレチウリ発生地 点数箇所につい て、発生状況及 びアレチウリの フェノロジー(ツ ル化、開花、種 子形成等)のデー タを取得した。	土地利用体系 や管理履歴と の関係を整理 することにより 管理体制の構 築に活用する。	無	(1,000) 500	(1,500) 500	侵略 的外 来種 コン ソー シア ム

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

本所 (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
安全性、生産 性向上	牧草地・飼料畑除 草剤実用化試験	継続	受託	R2-	飼料作物に対する除 草剤、生育調整剤に 関する薬効・薬害を 調査し、新たな薬剤 及び用法の実用化に より自給飼料作物の 生産性向上が図られ る。	2種類の除草剤につ いて飼料用トウモロ コシにおける適用拡 大に必要なデータを 取得した。	効果が確認で きた薬剤や用 法は順次商品 化及び適用拡 大される。	無	(286) 286	(626) 340	(公財) 日本植 物調節 財研究 協会
ブランド力 向上	新たな遺伝的能力 評価手法を用いた 優良和牛子牛の効 率的生産  ・遺伝子解析によ る肥育成績推定 手法の改良 ・遺伝子解析を用 いた優良和牛子 牛生産技術の実 証	継続	単独	H29-R3  (H29-R 元)  (H30-R3)	全国的な和牛肥育 素牛不足・価格高騰 に対応し、遺伝子解 析により能力評価し た優良な雌雄の和牛 で優良受精卵を増 産・供給する。 供給卵で生まれた子 牛の肥育成績から、 遺伝的能力評価方 法の精度向上を図 る。	構築した遺伝的能力 評価手法により選抜 した和牛から、優良 受精卵を505個生産 し、内221卵を民間 に供給した。このう ち、67頭が出生し、 23頭の遺伝子の型 を解析した。 移植産子16頭の肥 育成績を解析し、移 植産子の遺伝子の型 と供卵牛のゲノミッ ク評価からの予測値 と実測値に、ロー ス芯面積で相関を 確認した。 引き続き、移植産子 の遺伝子解析を行う とともに、移植産子 の肥育成績の追跡調 査を行ない、肥育成 績の推定精度の向上 を図る。	静岡県和牛改良推 進協議会において、 本研究成果を活用 した受精卵の販売を 今年度から開始す る。これにより、県 内産の優良肥育素牛 の確保が期待される。	無	(19,195) 5,784	(19,987) 792	

試験研究成果一覧表

本所 (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
ブランド力 向上	マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発  ・有用微生物の探索（乳酸菌の選抜） ・海洋由来微生物活用モデル開発（ヨーグルト及びサイレージ用乳酸菌製剤の開発）	継続	共同	R2-R4  R2-R3  R3-R4	マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発を行う。	海洋由来微生物源から乳酸菌と推定される492株を収集し、さらに選抜した58株について、スキムミルクを用いた凝固能や香りなどについて評価試験を行った。	収集した乳酸菌はMaOI機構が運営する微生物ライブラリーに登録され、新商品の開発に活用される。	無	(6,670) 6,670	(8,290) 1,620	新成長

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

中小家畜研究センター (令和2年度終了課題)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
畜産環境対策	<p>養豚排水処理施設におけるアナモックス反応による窒素除去の適応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養豚排水処理施設のアナモックス菌生息状況調査</li> <li>・異なる条件下におけるアナモックス菌の挙動試験</li> <li>・アナモックス法の経済評価</li> </ul>	終了	単独	<p>H30-R2</p> <p>(H30-R元)</p> <p>(R元-R2)</p> <p>(R2)</p>	<p>当センターの排水処理施設ではアナモックス菌が増殖・定着している。本研究では、アナモックス菌の定着要因と生息条件を明らかにし、養豚農家の既存排水処理施設におけるアナモックス法を適用した排水処理施設モデルを示す。</p>	<p>県内養豚廃水処理施設2カ所でアナモックス菌の集積を確認した。良好な窒素除去を行うには、ばっ気槽内の溶存酸素濃度とpHを至適範囲内で運転することが重要であることを確認した。</p>	<p>既設の養豚排水処理施設におけるアナモックス法の適用方法を提示し、硝酸性窒素等の一律排水基準をクリアする。</p>	無	(3,458) 1,316	—	
安全性、生産性向上	<p>太陽光を利用した鶏舎内冷房の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽エネルギー利用効果の検討</li> <li>・効果的な空冷方法の検討</li> <li>・太陽エネルギーを利用した空冷技術導入モデルの作成</li> </ul>	終了	単独	<p>R元-R2</p> <p>(R元)</p> <p>(R元-R2)</p> <p>(R2)</p>	<p>鶏に対する暑熱の影響は深刻で、発育遅延、産卵率の低下等の生産性の低下を引き起こす。そこで、太陽光利用に取り組む先進的事例調査及び効果的な空冷方法の検討により、養鶏経営の太陽エネルギー利用空冷技術の導入モデルを作成する。</p>	<p>産卵率は24週齢で冷房区が他の2区と比較して有意に高かったが、産卵後期では差が認められず、導入モデル作成には至らなかった。</p>	<p>現時点では冷房冷は経済的視点からは現実的ではないが、アニマルウェルフェアの付加価値をつけた鶏卵生産に活かせる可能性が考えられる。</p>	無	(15,428) 7,881	—	

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和2年度終了課題)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
ブランド力向 上	SPFデュロック種 系統豚の維持と 普及  ・適切な血縁管 理と交配 ・販売精液活力 調査 ・WLD肉豚能力調 査	終了	単独	H28-R2  (H28-R2)  (H28-R2)  (H28-R2)	「フジロック2」は 静岡型銘柄豚「ふじ のくに」の止め雄と して利用され、その 出荷頭数の継続・増 加のために、「フジ ロック2」の維持・供 給が必要となる。 「フジロック2」と WL種との交配により 生まれた肉豚の能力 を調査する。	雄10頭、雌30頭 の規模で維持 し、研究期間を 通して合計122 頭販売した。 肉豚の能力を調 査し、フジロッ ク2を止め雄と すると出荷日齢 が早くなった。	「フジロック2」 の安定供給に より、「ふじの くに」の生産が 維持される。	無	(49,835) 10,169	—	

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

中小家畜研究センター (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
畜産環境対策	無臭養豚管理技術の開発に関する研究  ・閉鎖型豚舎の環境制御システムの開発 ・静岡型養豚脱臭システムの開発	継続	単独	R元-R3  (R元-R3)  (R元-R3)	臭気問題は、養豚場の規模拡大、県外企業の誘致を促す面でも阻害要因となっている。現在利用されている方法は限定的であり、抜本的解決に至っていない。そこで、無臭化に向けた養豚脱臭システムを開発し、県民生活と養豚業の共存を図る。	舎内の臭気濃度、CO <sub>2</sub> 濃度等を計測するセンサーを開発し、計測値と連動した脱臭装置の運転システムを開発した。豚舎特有の複合臭気は無臭化する装置を製作・実証した。	無臭化技術により、県民生活と養豚業が共存できる環境を構築し、県内養豚農家の規模拡大、県外企業誘致を促進する。	無	(50,663) 23,704	(62,474) 11,811	(新成長)
畜産環境対策	活性汚泥処理の最適化と新規窒素除去反応アナモックスの利用による畜産廃水処理技術の高度化  ・アナモックス共存型活性汚泥処理施設運転条件の最適化	継続	国庫 共同	R元-R3  (R元-R3)	アナモックス菌が自生している農家の活性汚泥処理施設において、有機物の酸化分解とアナモックス反応による窒素除去を1つの槽で行う際の最適化条件を解明する。	ばつ気量制御システム導入により、良好な汚水処理と消費電力の削減が達成された。低温下でも活性の高いアナモックス菌を確認した。	農家への導入と維持管理が容易なアナモックス処理システムを開発することにより、水質汚濁防止法の窒素の一律排水基準(100ml/l)を達成させる。	無	(12,075) 5,495	(17,310) 5,235	(国研)農研機構畜産研究部門

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

中小家畜研究センター (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
畜産環境対策	再利用性の高い 量産型茶殻脱 臭剤の開発	継続	受託 共同	R2-R3	脱臭装置の吸着 脱臭用充填剤と して、茶殻を含 む安価で高性能 かつ使用後土壌 還元可能な着材 を開発する。	茶殻と土壌成分を 混成したペレット を作成し、脱臭農 を評価した。	養豚場をはじ めとする畜産 農家からの悪 臭を低減する。	無	(850) 850	(1,741) 891	
安全性、生産 性向上	フジキンカの交配 方法検討による生 産性向上  ・新たな交配方 法による豚の繁 殖・発育調査 ・新たな交配方 法による豚の肉 質調査 ・野外での成績 調査	継続	単独	H30-R4  (H30-R2)  (R元-R4)  (R2-R4)	当センターで開発し たフジキンカは、肉 質が高く評価されて いるが、飼養管理が 難しく、繁殖成績が 悪いことが生産拡大 の妨げの一因となっ ている。そこで本研 究は、フジキンカ の生産拡大を目的 として、デュロック 種を母豚とする 改善を図る。	新たな生産方法に よる肉豚は、従来 のフジキンカと比 較した食味試験に おいて、全体的な 食味では半数以上 の回答者から良 好、または同等で あるとの評価を得 た。	成果は静岡県 フジキンカ普及 推進協議会へ 伝えることで農 家への普及を 図る。フジキン カの生産が拡 大し、県外等へ の販売が可能 となる。	無	(30,560) 10,191	(40,774) 10,214	

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

中小家畜研究センター (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
安全性、生産 性向上	多産系ランドレースを用いた養豚生産効率の向上  ・種豚生産農場における多産系Lの探索 ・多産系Lを利用したF1母豚の能力調査 ・生産された肉豚の能力調査	継続	単独	R元-R5  (R元-R2)  (R2-R4)  (R3-R5)	近年、海外では平均産子数が14頭に達するLが作出され、国内のLも産子数の向上が図られている。そこで、静岡型銘柄豚の生産に使用するLの産子数について遺伝的能力評価を実施し、産子数が多い国産Lを探索する。	種豚生産農場等の分娩データを用いた遺伝的能力評価の結果、最大で平均より0.85増加する個体が存在していた。また、育種価が0.5以上の多産系Lが14頭存在した。	多産系Lを用い静岡型銘柄豚の産子数を12頭に増加させることで、静岡型銘柄豚の生産額が増加する。	無	(15, 284) 7, 560	(22, 240) 6, 956	
ブランド力向 上	SPF大ヨークシャー種「フジヨーク2」の維持と能力調査  ・長期維持手法の検討 ・離乳子豚の斉一性改善	継続	単独	R2-R6  (R2-R6)  (R2-R6)	「フジヨーク2」は、静岡型銘柄豚「ふじのくに」の種豚として用いられている。その出荷頭数の継続・増加には「フジヨーク2」の安定的な供給が必要だが、近交退化を抑制するため、適切な血縁管理が必要である。	令和2年度は17腹が分娩、125頭を生産し、農家4戸に雌10頭を販売した。また、平均総産子数7.1頭、平均産子体重1.5kg、離乳時育成率85.1%であった。	「フジヨーク2」の安定供給により、「ふじのくに」の生産が維持される。繁殖性についての斉一性が向上し、「フジヨーク2」の利用性が高まる。	無	(9, 444) 9, 444	(19, 800) 10, 356	

試 験 研 究 成 果 一 覧 表

中小家畜研究センター (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備 考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
ブランド力 向上	駿河シャモ系統の 長期維持を図る育 種改良と始原生 殖細胞の保存  ・基礎鶏の作出 ・形質の安定化 と能力確認 ・駿河シャモの長 期保存	新規	単独	R3-R7  (R3-R5) (R4-R7) (R3-R7)	県内養鶏農家及び 消費者に対し、将 来にわたって安定 的に駿河シャモを 供給するため、血 縁のない外部の鶏 種を導入し、駿河 シャモ系統の長期 維持を行う。	—	継続した駿河 シャモ生産 と、消費者へ の安定供給が 可能となる。 また、系統維 持に必要な、 外部の種鶏 導入の手法が 確立できる。	無	—	(7,350) 7,350	
新産業の創 出	再生医療に貢献する 無菌ブタとその飼育 システムの開発  ・無菌ブタ育成・輸 送システムの確立 ・メディカルグレイ ドピッグの開発	継続	共同	H29-R3  (H29-R3) (H29-R3)	ブタ細胞をヒトに 移植できる衛生レ ベルにする無菌ブ タの育成・輸送シ ステムを構築する。 医学用ベビーブ タやヒト疾患モデ ルブタ等の医療に 役立つよう特化し たブタを開発する。	無菌ブタ作出用アイ ソレータ・無菌飼育 アイソレータ・無菌 ブタ輸送アイソレー タを作製した。 飼育試験を実施し7 ヵ月齢の無菌ブタの 作出に成功した。 近交度が70%以上 のミニブタを作製し た。 医学用ベビーブタを 生産し、県内企業を 通じて42頭を販売 した。	臨床応用する ことのできる無 菌ブタ供給が 可能となる。 また、ヒト疾患 モデルをはじめ とした先進医 学へのブタの利 用促進が図ら れる。	無	(85,285) 17,396	(100,101 ) 14,816	(新成 長)

試験研究成果一覧表

中小家畜研究センター (令和3年6月30日現在)

区分 事業名	研究テーマ (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的  背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費 (単位：千円)		備考
									(前年度まで) 前年度	(全体) 本年度	
新産業の創出	Rabファミリー 低分子量G蛋白質の遺伝子改 変による越境性 動物疾病抵抗 性動物の開発	継続	国庫 共同	R2-R4	ワクチンによる 制圧が困難なア フリカ豚熱や鳥 インフルエンザ 等の越境性動物 疾病に対する抵 抗性動物を遺伝 子改変技術によ り開発する。	ウイルスの感染に 関わるRabファミ リー蛋白の過剰発 現するトランスジ ェニックブタの作 出を試みた。 遺伝子組み換え胚 を作製し、仮母ブ タに移植したが、 子豚は得られなか った。	越境性動物疾 病に対する新た な制圧方法と なり得るととも に、ウイルスの 主要感染経路 の分子メカニズ ムの解明法を 転換する開始 点となる。	無	( 900) 900	(1,800) 900	科研費

(5) 研究成果の広報・普及

試験研究成果の広報・普及については、以下の冊子等を発行し、Webで公開するとともに生産者団体・農協の会合で研究員が説明している。

ア 試験研究の広報・普及活動

(ア) 試験研究成果の広報等

(令和2年度)

区分	資 料 名	部 数	備 考
(本所・センター)	1 静岡県畜産技術研究所研究報告 第13号	Web	産業イノベーション推進課
	2 あたらしい農業技術(本所:酒粕給与による黒毛和種肥育技術)	180	
	3 あたらしい農業技術(センター:子豚損耗低減のためのセンシング項目と早期対応の効果)	180	
	4 畜産技術研究所要覧(本所)	300	
	5 中小家畜研究センター要覧(センター)	200	
	6 5研究所共通パンフレット	Web	産業イノベーション推進課
	7 試験研究10大トピックス	Web	農業戦略課

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

区分	資 料 名	部 数	備 考
(本所・センター)	1 あたらしい農業技術(本所:人工授精後の卵巣動態に基づいた受胎率向上技術の検討) 予定	180	産業イノベーション推進課
	2 あたらしい農業技術(センター:養豚廃水処理施設におけるアナモックス菌による窒素除去) 予定	180	
	3 畜産技術研究所要覧(本所)	300	
	4 中小家畜研究センター要覧(センター)	200	

## (イ) 学会発表及び機関誌投稿等

(令和2年度)

区分		本所	センター	計	備考
発表	学会	3回	4回	7回	日本畜産学会、東海畜産学会、 関西畜産学会、日本筋学会 他
	投稿	1回	0回	1回	日本草地学会誌 他
	講演会	1回	0回	1回	JA南駿あしたか牛推進協議会
11人		0人	11人		
指導	現地指導	29回	4回	33回	畜産環境対策、無臭養豚技術指導 他
		330人	35人	365人	
	来所指導	39回	2回	41回	畜産環境対策、無臭養豚技術指導 他
		93人	4人	97人	
電話指導	37回	19回	56回	畜産環境対策、飼養管理技術 他	
視察 受入	学生	8人	0人	8人	家畜人工授精講習会
	企業	0人	2人	2人	
	農家	0人	0人	0人	
	官庁	0人	0人	0人	
	その他	4人	13人	17人	
	小計	12人	15人	27人	
マス コミ	取材	15回	1回	16回	放牧、研究成果 他

(令和3年度)  
(令和3年6月30日現在)

区分		本所	センター	計	備考
発表	学会	1回	0回	1回	日本雑草学会
	投稿	0回	1回	1回	Chemosphere
	講演会	1回	0回	0回	西部柑橘技術者協議会
22人		0人	22人		
指導	現地指導	0回	2回	2回	畜舎排水処理指導 繁殖豚管理技術 他
		0人	8人	8人	
	来所指導	13回	1回	14回	畜産環境対策 自給飼料生産技術 繁殖豚管理技術 他
		24人	1人	25人	
電話指導	12回	9回	21回	研究成果 畜産環境対策 他	
視察 受入	学生	0人	0人	0人	NHK報道局
	企業	0人	0人	0人	
	農家	0人	0人	0人	
	官庁	0人	0人	0人	
	その他	2人	0人	2人	
	小計	2人	0人	2人	
マス コミ	取材	4回	0回	4回	新聞 他

(6) その他の研修等普及指導・広報活動

試験研究成果の伝達と広報を主体に、実習生や研修生の受け入れおよび参観者などの視察の対応などを行っている。

ア 研修・実習関連業務

(ア) 国等への職員の派遣研修状況

職員の資質向上、専門的な知識の習得、研究推進などを図るため、独立行政法人(独法)、国立研究開発法人(国研)で研修を受けた。

(令和2年度)

区分	研修の種類	所属・氏名	実施場所	期間
本所	中央畜産技術研修会 「放牧」	研究員 齊藤瑠人	(独法)家畜改良センター 中央畜産研修施設	R2.9.23 ～9.25
本所	中央畜産技術研修会 「肉用牛」	主任研究員 森谷美咲	(独法)家畜改良センター 中央畜産研修施設	R2.11.24 ～11.27
センター	食肉・鶏卵・乳製品の官能評価ワークショップ	研究員 伊神悠祐	(国研)食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 (WEB開催)	R2.11.12 ～11.13

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

区分	研修の種類	所属・氏名	実施場所	期間
本所	中央畜産技術研修会 「新任畜産技術職員(1)」	研究員 川井理人	(独法)家畜改良センター 中央畜産研修施設	R3.6.1 ～6.3(中止5/25)
センター	—	—	—	—

(イ) 実習生・研修生の受入

畜産技術研究所において実習、研修を希望する者に対し実習、研修の場を提供している。

(令和2年度)

区分	実習研修内容	対象者	期間	参加数
本所	—	—	—	—
センター	—	—	—	—

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

区分	実習研修内容	対象者	期間	参加数
本所	—	—	—	—
センター	—	—	—	—

イ 公開デーの開催

畜産への関心を高め、試験研究への理解を深めるため、一般県民を対象に「公開デー」を開催している。

(令和2年度)

機 関	名 称	開催日	開催場所	参加数
本 所	夏休み親子農業教室	R2.8.12	本 所	48人
	県民の日	R2.8.21	本 所	0人
	富士山観望会	R2.2.23	本 所	中止
センター	夏休み親子農業教室(本所合同)	R2.8.12	本 所	48人

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

機 関	名 称	開催日	開催場所	参加数
本 所	夏休み親子農業教室 畜産技術研究所公開デー	中止	本 所	—
センター	夏休み親子農業教室 畜産技術研究所公開デー (本所合同)	中止	本 所	—

ウ 県政さわやかタウンミーティングの開催

「県民暮らし満足度日本一」を目指した事業の課題や推進方策について、県民の意見を今後の施策展開に反映させるため、県民と直接意見の交換をするため開催している。

(令和2年度)

場 所	内 容	開催日	対象者	参加数
本所・センター 合同	県内畜産振興に関する意見交換会	R2.11.9	県民	14

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

場 所	内 容	開催日	対象者	参加数
—	—	—	—	—

### 3 農林大学校畜産分校・中小家畜分校の概要

#### 応募者及び入学者状況調

年 度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
学科又は課程等	定 員	応 募 者 数	入 学 者 数	応 募 者 数	入 学 者 数	応 募 者 数	入 学 者 数
畜産学科 (大家畜コース 酪農) (大家畜コース 肉牛) (中小家畜コース 養豚) (中小家畜コース 養鶏)	10	30	13 (8) (2) (2) (1)	11	10 (6) (1) (1) (2)	0	0 (0) (0) (0) (0)
計		30	13	11	10	0	0
定員に対する充足率			130%		100%		0%

定員は大家畜・中小家畜コースの合計

※1 応募者数については、推薦入試、一般入試及び再募集に応募した延人数。

※2 平成28年度より学科一括応募となり、2年次にコース選択を行うこととなった。

※3 令和2年度は入学試験を行わなかったため入学者は0人（専門職大学への移行のため）。

#### 卒業生の進路状況調

学科又は 課程等	畜 産 学 科												計				
	平成 30 年度				令和元年度				令和 2 年度								
	大家畜	養豚	養鶏	計	大家畜	養豚	養鶏	計	大家畜	養豚	養鶏	計	大家畜	養豚	養鶏	計	
進路先																	
自営(農林業 又は漁業)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1人	0人	0人	1人	
就職	農林業 (県内漁業) 関連	4	1	2	7	9	2	1	12	5	0	0	5	18	3	3	24
	その他	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	1	3	2	1	1	4
進学	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	2	
研修	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	3	0	0	3	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	7	2	2	11	10	2	1	13	8	1	1	10	25	5	4	34	

4 事業の根拠法令調

事業名	根拠法令
○技術研究所試験研究費	・畜産技術研究所試験研究推進要領
○新成長戦略研究事業	・新成長戦略研究推進要綱
○公募競争型資金活用研究事業	・農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業実施要領 ・補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律
○畜産業振興総合推進費 (家畜改良推進事業) (家畜改良増殖対策事業) (資源循環型畜産推進事業) (飼料生産推進事業) (畜産物流通推進安全性確保事業)	・強い農業づくり交付金実施要綱 ・家畜改良増殖法 ・家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律 ・酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律 ・静岡県酪農・肉用牛生産近代化計画 ・飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律
○農業振興総合推進費 (農薬適正使用管理体制強化事業 農薬適正使用管理体制強化)	・農薬取締法 ・飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律
○高能力牛群整備促進事業	・高能力牛受精卵等売払い要領
○畜産競争力推進事業費	・高栄養粗飼料増産事業実施要領
○家畜人工授精師養成講習会	・家畜改良増殖法
○受託放牧育成事業	・畜産技術研究所乳用牛放牧育成業務実施要領
○和牛受精卵供給事業	・静岡県和牛改良推進協議会規約
○銘柄豚供給事業	・養豚農業振興法 ・静岡県系統豚売払い要領 ・静岡県「フジキンカ」売払い要領
○銘柄鶏供給事業	・静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター「駿河シャモ・フジ小軍鶏」譲渡要領

職 員 調

(令和3年6月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	経済産業部 参事兼所長 (技)	伊藤 謙一	所 総 括	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
2	研究統括官 兼酪農科長 (技)	永田 浩章	酪農科・肉牛科・飼料 環境科統括 試験研究予算総括	□□□	□年□月	□□□ □□□ □□□(□□□□)
3	研究調整官 (技)	塩谷 治彦	試験研究推進調整	□□□	□年□月	□□□ □□□ □□□(□□□□)

総務課

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
4	課長(事)	岩崎 徹	総務課総括	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
5	主査(事)	鈴木 大樹	総務・会計	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
6	主事	三ツ岡 市朗	総務・会計	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
7	技能長	高野 良夫	乳牛管理 総括	□□□	□年□月	□□□□□□
8	技能長	松本 実	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□
9	技能長	松浦 武彦	牧草維持管理 総括	□□□	□年□月	□□□□□□
10	技能長	田中 義久	肉牛・放牧牛管理 総括	□□□	□年□月	□□□□□□
11	技能長	金子 裕二	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□
12	主任技能員	近藤 信次	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□
13	主任技能員	山上 秀隆	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□
14	主任技能員	保竹 威	牧草維持管理	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□
15	主任技能員	佐野 淳司	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□
16	主任技能員	前嶋 智	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□
17	主任技能員	金森 伸行	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□

18	主任技能員	清 理祥	牧草維持管理	□□□	□年□月	□□□□□□
19	技能員	小笠原 志織	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□
20	技能員	上原 孝之	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□
21	技能員	馬場 研二	乳牛管理	□□□	□年□月	□□□□□□

総務課中小家畜分室

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
22	中小家畜分室長(事)	山川 秀喜	中小家畜分室総括	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
23	主任(事)	村上 暢彦	中小家畜分室総務・会計	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
24	主事(事)	松尾 花恵	中小家畜分室総務・会計	□□□	□年□月	□□□ □□□(□□□□)
25	技能長	八木 也寸市	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□
26	技能長	児玉 裕之	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□
27	主任技能員	岡田 栄治	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□
28	主任技能員	堀 心	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□
29	主任技能員	剣持 嘉乃	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□
30	技能員	落合 良英	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□
31	技能員	望月 辰真	飼養管理	□□□	□年□月	□□□□□□

酪農科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
32	上席研究員(技)	閨間 英之	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□
33	上席研究員(技)	小熊 亜津子	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□
34	主任研究員(技)	大村 学海	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□

## 肉牛科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
35	科長(技)	野田 準一	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□
36	主任研究員(技)	森谷 美咲	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□
37	主任研究員(技)	富岡 啓	生産技術研究	□□□	□年□月	□□□□□□

## 飼料環境科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
38	科長(技)	佐藤 克昭	環境保全研究	□□□	□年□月	□□□□□□
39	上席研究員(技)	高野 浩	草地飼料研究	□□□	□年□月	□□□□□□
40	研究員(技)	川井 理仁	草地飼料研究	□□□	□年□月	

## 中小家畜研究センター

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
41	センター長(技)	森 比佐子	センター総括	□□□	□年□月	□□□□□□
42	研究統括官兼養豚・養鶏科長(技)	柴田 昌利	センター研究企画総括、養豚・養鶏研究総括	□□□	□年□月	□□□□□□

## 養豚・養鶏科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
43	上席研究員(技)	大谷 利之	飼育技術研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□
44	上席研究員(技)	大竹 正剛	医療用豚の研究	□□□	□年□月	□□□□□□
45	上席研究員(技)	塩谷 聡子	生物工学の研究	□□□	□年□月	□□□□□□
46	上席研究員(技)	寺田 圭	育種・繁殖研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□
47	主任(技)	杉山 典	育種・繁殖研究(養豚)	□□□	□年□月	□□□□□□ □□□
48	主任研究員(技)	進士 遥奈	育種・繁殖研究(養鶏)	□□□	□年□月	□□□□□□
49	研究員(技)	伊神 悠祐	飼育技術研究(養豚)	□□□	□年□月	

## 資源循環科

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
50	科長(技)	戸塚 忠	資源循環研究総括	□□□	□年□月	□□□□□□
51	上席研究員(技)	石本 史子	畜産排水処理の研究	□□□	□年□月	□□□□□□
平均年数					13年9月	

## 会計年度任用職員

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	会計年度任用職員	赤池 伸一	車両運転、所内環境整備	□□□	□年□月	
2	会計年度任用職員	佐野 広子	総務事務	□□□	□年□月	
3	会計年度任用職員	熊谷 直美	乳牛管理	□□□	□年□月	
4	会計年度任用職員	相馬 真由美	乳牛管理	□□□	□年□月	
5	会計年度任用職員	矢辺 三夫	乳牛管理	□□□	□年□月	
6	会計年度任用職員	佐野 和久	乳牛管理	□□□	□年□月	
7	会計年度任用職員	藤本 拳浩	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	
8	会計年度任用職員	熊谷 正一	肉牛・放牧牛管理	□□□	□年□月	
9	会計年度任用職員	矢部 晴雄	圃場管理	□□□	□年□月	
10	会計年度任用職員	佐野 良	圃場管理	□□□	□年□月	
11	会計年度任用職員	佐野 えみ子	圃場管理	□□□	□年□月	
12	会計年度任用職員	伊藤 文栄	圃場管理	□□□	□年□月	
13	会計年度任用職員	鈴木 かおり	総務事務	□□□	□年□月	
14	会計年度任用職員	松屋 真人	鶏飼養管理	□□□	□年□月	
15	会計年度任用職員	南 久美	鶏飼養管理	□□□	□年□月	
16	会計年度任用職員	進士 薫	鶏飼養管理	□□□	□年□月	
17	会計年度任用職員	道下 仁美	豚飼養管理	□□□	□年□月	
18	会計年度任用職員	赤堀 和一	豚飼養管理	□□□	□年□月	

19	会計年度任用職員	山城 健由	家畜浄化施設管理	□□□	□年□月	
計		19人				

職 員 調

畜産経営環境技術センター

(令和3年6月30日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	所長(技)	森 比佐子	センター総括	□□□	□年□月	(兼) 先方在勤
2	研究統括官(技)	柴田 昌利	所長補佐	□□□	□年□月	(兼) 先方在勤
3	研究主幹(技)	戸塚 忠	経営、環境研究	□□□	□年□月	(兼) 先方在勤
4	上席研究員(技)	石本 史子	経営、環境研究	□□□	□年□月	(兼) 先方在勤
計		4人				

※摘要欄(兼)は、中小家畜研究センターを本務とし、畜産経営環境技術センターを兼務していることを表す。

### 職員の年齢調

(令和3年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	6人	
30歳以上40歳未満	5人	
40歳以上50歳未満	16人	
50歳以上56歳未満	7人	
56歳以上61歳未満	15人	再任用6人
61歳以上	2人	
計	51人	平均年齢 47.1歳

### 職員の年齢調

畜産経営環境技術センター

(令和3年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	0人	
30歳以上40歳未満	0人	
40歳以上50歳未満	0人	
50歳以上56歳未満	1人	(兼)
56歳以上61歳未満	3人	(兼)
61歳以上	0人	
計	4人	平均年齢 56.0歳

※ 摘要欄（兼）は、中小家畜研究センターを本務とし、畜産経営環境技術センターを兼務していることを表す。

## 健康管理

### 1 令和2年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 49 人 職員数 50 人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由  
育児休業中

### 2 令和3年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っても症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	4(4)人
C 2		要経過観察	1(1)人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	20(20)人
D 2		要経過観察	11(11)人
D 3		医 療 不 要	13(13)人
区 分 者 計			49(49)人
未区分者数			2人
合 計			51(49)人

(1) 管理区分A～C2該当者に対する措置状況

C1C2：時間外勤務及び長期、遠方への出張を制限している。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休	1人
イ 新規採用	1人
ウ 自己都合による未受診	人
エ その他	人

## 職員配置調

(令和3年6月30日現在)

区 分	総務課	酪農科	肉牛科	飼料環境科	中小家畜研究センター	計	
所 在 地	富士宮市猪之頭 1 9 4 5				菊川市西方 2 7 8 0	/	
担 当 区 域	県下全域						
配置職員	職 員 ( 事 )	3			2		5
	職 員 ( 技 )	3	3	3	3	10	22
	職 員 ( 技 能 )	12				6	18
	再任用職員(事)					1	1
	再任用職員(技)					1	1
	再任用職員(技能)	3				1	4
	会計年度任用職員	(2)	(4)	(2)	(4)	(7)	(19)
計	21 (2)	3 (4)	3 (2)	3 (4)	21 (7)	51 (19)	

## 職員配置調

畜産経営環境技術センター

(令和3年6月30日現在)

区 分	研究スタッフ	計	
所 在 地	菊川市西方 2 7 8 0	/	
担 当 区 域	県下全域		
配置職員	職 員 ( 事 )		
	職 員 ( 技 )	(4)	(4)
	職 員 ( 技 能 )		
	再任用職員(技)		
	会計年度任用職員		
計	(4)	(4)	



歳 入 予 算

	調 定 額 A	収 入 済 額	
		納 期 内 B	納 期 後 C
	円	円	円
	27,000	27,000	0
	27,000	27,000	0
	27,000	27,000	0
	27,000	27,000	0
	10,245,014	10,083,754	0
	90,300	90,300	0
	90,300	90,300	0
	78,300	78,300	0
	12,000	12,000	0
	10,154,714	9,993,454	0
	110,000	110,000	0
	110,000	110,000	0
	10,044,714	9,883,454	0
研究生	10,044,714	9,883,454	0
	462,309	462,309	0
	462,309	462,309	0
	462,309	462,309	0
	451,258	451,258	0
	451,258	451,258	0
	11,051	11,051	0
	10,734,323	10,573,063	0

執 行 状 況 調

不 納 欠 損 額	収 入 未 済 額		
	納 期 限 経 過 E	納 期 限 未 到 来 F	計
D	円	円	
円	円	円	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	161,260	161,260
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	161,260	161,260
0	0	0	
0	0	0	
0	0	161,260	161,260
0	0	161,260	161,260
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	0	
0	0	161,260	161,260

預 金 調

(令和3年6月30日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘要
静岡銀行 菊川支店	無利息型普通預金	0622391	中小家畜研究センター 資金前渡者 森 比佐子	0	研修参加費等資金前渡用
静岡銀行 菊川支店	無利息型普通預金	0622380	(自振口) 中小家畜研究センター 資金前渡者 森 比佐子	0	公共料金等口座振替用
残 高 合 計				0	

## 郵 券 等 受 払 調

(令和3年6月30日現在)

(単位:枚、円)

区 分	種 類	2 年 度						3 年 度						差 引 現 在 高	摘 要	
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			
郵券	205 円券	3	615	0	0	3	615	0	0	0	0	0	0	0	0	書類の郵送
	140 円券	61	8,540	100	14,000	145	20,300	16	2,240	150	21,000	35	4,900	131	18,340	〃
	120 円券	12	1,440	50	6,000	41	4,920	21	2,520	30	3,600	11	1,320	40	4,800	〃
	100 円券	17	1,700	100	10,000	93	9,300	24	2,400	100	10,000	21	2,100	103	10,300	〃
	94 円券	0	0	50	4,700	27	2,538	23	2,162	30	2,820	9	846	44	4,136	〃
	84 円券	88	7,392	250	21,000	269	22,596	69	5,796	200	16,800	65	5,460	204	17,136	〃
	10 円券	26	260	50	500	68	680	8	80	100	1,000	18	180	90	900	〃
	1 円券	50	50	0	0	46	46	4	4	0	0	4	4	0	0	〃
	50 円通常はがき	2	100	0	0	1	50	1	50	0	0	0	0	1	50	連絡通信
	計		20,097	56,200	61,045	15,252	55,220	14,810	55,662							
県証紙	10000 円券	0	0	28	280,000	25	250,000	3	30,000	15	150,000	12	120,000	6	60,000	豚熱予防注射
	5000 円券	0	0	11	55,000	9	45,000	2	10,000	2	10,000	2	10,000	2	10,000	〃
	1000 円券	9	9000	24	24,000	21	21,000	12	12,000	0	0	2	2,000	10	10,000	〃
	500 円券	5	2500	11	5,500	7	3,500	9	4,500	5	2,500	7	3,500	7	3,500	〃
	100 円券	35	3500	10	1,000	38	3,800	7	700	10	1,000	7	700	10	1,000	〃
	50 円券	4	200	10	500	4	200	10	500	0	0	0	0	10	500	〃
	10 円券	38	380	0	0	17	170	21	210	0	0	4	40	17	170	〃
計		15580	366,000	323,670	57,910	163,500	136,240	85,170								
収入印紙	10 円券	16	160	0	0	0	0	16	160	0	0	0	0	16	160	肥料登録更新
	計		160	0	0	0	160	0	160	0	0	0	0	160		
特許印紙	50000 円券	0	0	1	50,000	1	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	商標登録出願
	5000 円券	0	0	1	5,000	1	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	〃
計		0	55,000	55,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

## 歳入歳出外現金調

(令和 2年度)  
(令和 3年 3月31日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
保証金	円 0	円 1,749,000	円 1,749,000	円 0	
計	0	1,749,000	1,749,000	0	

# 歳出予算執行状況調

(令和 2年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 04 経営管理費	7,997,687	7,997,687	0	
項 01 経営管理費	7,997,687	7,997,687	0	
目 01 一般総務費	2,466,095	2,466,095	0	
01 報酬	1,486,295	1,486,295	0	
03 非常勤職員報酬	1,486,295	1,486,295	0	
03 職員手当等	229,451	229,451	0	
01 その他の職員手当等	229,451	229,451	0	
04 共済費	607,435	607,435	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	607,435	607,435	0	
09 旅費	142,914	142,914	0	
01 その他の旅費	142,914	142,914	0	
目 03 行政経営費	2,310,000	2,310,000	0	
15 工事請負費	2,310,000	2,310,000	0	
目 04 職員厚生費	42,592	42,592	0	
11 需用費	42,592	42,592	0	
01 その他の需用費	42,592	42,592	0	
目 05 資産経営費	3,179,000	3,179,000	0	
11 需用費	264,000	264,000	0	
01 その他の需用費	264,000	264,000	0	
15 工事請負費	2,915,000	2,915,000	0	
款 08 経済産業費	137,662,970	137,662,970	0	
項 01 経済産業費	8,420	8,420	0	
目 02 経済産業企画費	8,420	8,420	0	
09 旅費	8,420	8,420	0	
02 普通旅費	8,420	8,420	0	
項 02 産業革新費	40,089,987	40,089,987	0	
目 01 産業革新費	40,089,987	40,089,987	0	
09 旅費	3,520	3,520	0	

(令和 2年度)

## 一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
02 普通旅費	3,520	3,520	0	
11 需用費	9,106,118	9,106,118	0	
01 その他の需用費	9,106,118	9,106,118	0	
12 役務費	1,866,707	1,866,707	0	
13 委託料	26,275,492	26,275,492	0	
14 使用料及び賃借料	202,000	202,000	0	
15 工事請負費	1,980,000	1,980,000	0	
18 備品購入費	605,000	605,000	0	
19 負担金、補助及び交付金	51,150	51,150	0	
項 05 農業費	97,564,563	97,564,563	0	
目 01 農業費	97,534,103	97,534,103	0	
01 報酬	11,554,331	11,554,331	0	
03 非常勤職員報酬	11,554,331	11,554,331	0	
03 職員手当等	2,636,498	2,636,498	0	
01 その他の職員手当等	2,636,498	2,636,498	0	
04 共済費	4,601,117	4,601,117	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	4,601,117	4,601,117	0	
08 報償費	0	0	0	
02 買上金	0	0	0	
09 旅費	961,530	961,530	0	
01 その他の旅費	850,470	850,470	0	
02 普通旅費	111,060	111,060	0	
11 需用費	65,130,408	65,130,408	0	
01 その他の需用費	65,130,408	65,130,408	0	
12 役務費	5,692,628	5,692,628	0	
13 委託料	4,142,930	4,142,930	0	
14 使用料及び賃借料	2,386,581	2,386,581	0	
18 備品購入費	251,680	251,680	0	

(令和 2年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
19負担金、補助及び交付金	108,500	108,500	0	
27公課費	67,900	67,900	0	
目 02畜産業費	30,460	30,460	0	
09旅費	3,460	3,460	0	
02普通旅費	3,460	3,460	0	
11需用費	17,000	17,000	0	
01その他の需用費	17,000	17,000	0	
12役務費	10,000	10,000	0	
計	145,660,657	145,660,657	0	

# 歳出予算執行状況調

(令和 3年度)  
(令和 3年 6月30日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 04 経営管理費	4,434,657	68,332	4,366,325	
項 01 経営管理費	4,434,657	68,332	4,366,325	
目 01 一般総務費	113,580	0	113,580	
04 共済費	113,580	0	113,580	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	113,580	0	113,580	
目 04 職員厚生費	88,077	68,332	19,745	
10 需用費	88,077	68,332	19,745	
01 その他の需用費	88,077	68,332	19,745	
目 05 資産経営費	4,233,000	0	4,233,000	
10 需用費	275,000	0	275,000	
01 その他の需用費	275,000	0	275,000	
14 工事請負費	3,958,000	0	3,958,000	
款 08 経済産業費	121,466,600	20,873,759	100,592,841	
項 01 経済産業費	11,000	0	11,000	
目 02 経済産業企画費	11,000	0	11,000	
08 旅費	11,000	0	11,000	
02 普通旅費	11,000	0	11,000	
項 02 産業革新費	26,503,000	2,777,188	23,725,812	
目 01 産業革新費	26,503,000	2,777,188	23,725,812	
07 報償費	21,000	0	21,000	
01 その他の報償費	21,000	0	21,000	
08 旅費	373,000	7,860	365,140	
02 普通旅費	373,000	7,860	365,140	
10 需用費	8,776,000	2,422,486	6,353,514	
01 その他の需用費	8,776,000	2,422,486	6,353,514	
11 役務費	1,454,000	4,730	1,449,270	
12 委託料	11,994,000	332,112	11,661,888	
13 使用料及び賃借料	252,000	0	252,000	

一般会計

(令和 3年度)  
(令和 3年 6月30日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
14 工事請負費	2,200,000	0	2,200,000	
17 備品購入費	1,351,000	0	1,351,000	
18 負担金、補助及び交付金	82,000	10,000	72,000	
項 05 農業費	94,952,600	18,096,571	76,856,029	
目 01 農業費	94,906,000	18,096,571	76,809,429	
01 報酬	11,694,000	1,890,683	9,803,317	
03 非常勤職員報酬	11,694,000	1,890,683	9,803,317	
03 職員手当等	2,642,000	1,292,898	1,349,102	
01 その他の職員手当等	2,642,000	1,292,898	1,349,102	
04 共済費	4,201,000	544,614	3,656,386	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	4,201,000	544,614	3,656,386	
08 旅費	1,325,000	173,100	1,151,900	
01 その他の旅費	898,000	144,760	753,240	
02 普通旅費	427,000	28,340	398,660	
10 需用費	55,740,000	12,084,111	43,655,889	
01 その他の需用費	55,740,000	12,084,111	43,655,889	
11 役務費	5,060,000	1,096,193	3,963,807	
12 委託料	4,165,000	561,318	3,603,682	
13 使用料及び賃借料	2,487,000	411,454	2,075,546	
14 工事請負費	2,349,000	0	2,349,000	
17 備品購入費	5,049,000	0	5,049,000	
18 負担金、補助及び交付金	132,000	29,000	103,000	
26 公課費	62,000	13,200	48,800	
目 02 畜産業費	46,600	0	46,600	
08 旅費	25,000	0	25,000	
02 普通旅費	25,000	0	25,000	
10 需用費	17,000	0	17,000	
01 その他の需用費	17,000	0	17,000	

一般会計

(令和 3年度)  
(令和 3年 6月30日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
11 役務費	円 4,600	円 0	円 4,600	
計	125,901,257	20,942,091	104,959,166	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和元年度	令和2年度	左のうち、令和元年度からの繰越額分
(13) 委託料	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		26,275,492	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		4,142,930	
計					22,449,103	30,418,422	0
(15) 工事請負費	一般会計	経営管理費	経営管理費	行政経営費		2,310,000	
	一般会計	経済産業費	経営管理費	資産経営費		2,915,000	
	一般会計	経済産業費	経済産業費	産業革新費		1,980,000	
計					106,327,450	7,205,000	0
(17) 公有財産 購入費							
計					0	0	0
(18) 備品購入費	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		605,000	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		251,680	
計					5,869,550	856,680	0
(19) 負担金、補助金 及び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費		51,150	
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費		108,500	
計					188,200	159,650	0
(22) 補償、補填 及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表 令和3年度  
(令和3年6月30日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、2年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	332,112	/
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	561,318	
計					893,430	0
(14) 工事請負費						/
計					0	0
(16) 公有財産 購入費						/
計					0	0
(17) 備品購入費						/
計					0	0
(18) 負担金、 補助金 及び交付金	一般会計	経済産業費	産業革新費	産業革新費	10,000	/
	一般会計	経済産業費	農業費	農業費	29,000	
計					39,000	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金						/
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和2年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約締 結方法	契約 期間	支出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	自家用電気工作物 保安管理業務	(一財)中部電気保安協会 掛川営業所	円 319,440	円 319,440	円	円 319,440	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.4.17	円 319,440	自家用電気工作物の保安管理 業務	随契 2号 (不適)
2	夜間警備業務	セコム(株)	336,600	336,600		336,600	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.5.22	28,050	夜間等の機械警備及び火災報知 器監視業務	随契 2号 (不適)
									R2.6.22	28,050		
									R2.7.17	28,050		
									R2.8.21	28,050		
									R2.9.18	28,050		
									R2.10.20	28,050		
									R2.11.17	28,050		
									R2.12.18	28,050		
									R3.1.19	28,050		
									R3.2.16	28,050		
									R3.3.16	28,050		
									R3.4.23	28,050		
										小 計		
3	清掃等業務	東海ビル管理(株)	341,440	341,440		341,440	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.5.21	28,453	庁舎管理棟及びその周辺の清掃 等業務	随契 1号 (少額)
									R2.6.12	28,453		
									R2.7.14	28,453		
									R2.8.17	28,453		
									R2.9.15	28,453		
									R2.10.14	28,453		
									R2.11.16	28,453		
									R2.12.11	28,453		
									R3.1.18	28,453		
									R3.2.15	28,453		
									R3.3.12	28,453		
									R3.4.15	28,457		
										小 計		
4	電話設備 保守点検業務	三興電機(株)	166,100	125,400		125,400	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.5.15	31,350	電話設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
									R2.8.6	31,350		
									R2.11.6	31,350		
									R3.2.26	31,350		
										小 計		
5	合併処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備(株)	429,000	429,000		429,000	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.10.8	214,500	合併処理施設(浄化槽)の保守 管理業務	随契 1号 (少額)
									R3.4.7	214,500		
										小 計		
6	家畜排水処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備(株)	165,000	165,000		165,000	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.10.8	82,500	家畜排水処理施設の保守 管理業務	随契 1号 (少額)
									R3.4.7	82,500		
										小 計		
7	冷凍空調熱源設備 機器保守管理業務	東海サモエング・アリンク(株)	1,512,500	1,430,000		1,430,000	指名	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.10.8	880,000	センター内冷凍空調設備、 熱源設備機器(ボイラー)の 保守点検業務	
									R3.4.7	550,000		
										小 計		
8	消防設備等 保守点検業務	セルコ(株)	759,412	455,400		455,400	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.9.25	206,800	消防設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
									R3.3.24	248,600		
										小 計		
9	実験器具洗浄及び 実験補助業務	(株)レンティック中部	1,992,672	1,992,672		1,992,672	不随	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.5.21	166,056	実験器具の洗浄、清掃 及び実験補助業務	
									R2.6.12	166,056		
									R2.7.13	166,056		
									R2.8.13	166,056		
									R2.9.14	166,056		
									R2.10.12	166,056		
									R2.11.16	166,056		
									R2.12.11	166,056		
									R3.1.12	166,056		
									R3.2.12	166,056		
									R3.3.12	166,056		
									R3.4.14	166,056		
										小 計		
頁計			6,022,164	5,594,952	0	5,594,952				5,594,952		

## 委託料に関する調

(令和2年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約締 結方法	契約 期間	支出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
10	産業廃棄物収集運搬 及び処分業務	(株) リサイクルクリーン	331,100	310,200		310,200	随契	R2.4.1 ～ R3.3.31	R2.6.22	51,700	産業廃棄物 収集運搬処分業務	随契 1号  (少額)
									R2.8.31	51,700		
									R2.10.20	51,700		
									R2.12.22	51,700		
									R3.3.8	51,700		
									R3.3.31	51,700		
									小 計	310,200		
11	産業廃棄物(燃え殻) 収集運搬処分業務	静和ケミカルサービス(株)	92,400	92,400		92,400	随契	R2.4.20 ～ R2.6.30	R2.5.15	92,400	産業廃棄物(燃え殻) 収集運搬処分業務	随契 1号 (少額)
12	産業廃棄物 (廃蛍光管、廃乾電池類) 収集運搬処分業務	(株) ホクセイ	69,300	69,300		69,300	随契	R2.7.1 ～ R3.3.19	R2.8.5	69,300	産業廃棄物 (廃蛍光管、廃乾電池類) 収集運搬処分業務	随契 1号 (少額)
13	ヒト疾患モデルブタ 作出にかかる試験 業務	国立大学法人九州大学総長 久保 千春	1,314,820	1,314,820		1,314,820	随契	R2.7.31 ～ R3.3.19	R2.10.1	1,314,820	ヒト疾患モデルブタ作出に かかる試験業務	随契 2号 (不適)
14	複合式脱臭装置制作業務	新興商事(株)	17,600,000	17,490,000		17,490,000	随契	R2.8.6 ～ R3.1.8	R3.1.22	17,490,000	複合式脱臭装置制作業務	随契 2号 (不適)
15	産業廃棄物処理(感染性) 業務	角松商事(有)	11,550	11,550		11,550	随契	R2.12.26 ～ R3.3.26	R3.2.12	11,550	産業廃棄物(感染性) 処分業務	随契 1号 (少額)
16	産業廃棄物処理(感染性) 業務	日本産業廃棄物処理(株)	35,200	35,200		35,200	随契	R2.12.26 ～ R3.3.26	R3.2.19	35,200	産業廃棄物(感染性) 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
17	産業廃棄物(金属くず) 収集運搬業務	(株) 山内商店	22,000	22,000		22,000	随契	R3.1.25 ～ R3.3.26	R3.3.8	22,000	産業廃棄物(金属くず) 収集運搬業務	随契 1号 (少額)
18	12か月齢飼育用 アイソレータ製作業務	日商産業(株)	5,478,000	5,478,000		5,478,000	随契	R3.2.26 ～ R3.3.26	R3.4.14	5,478,000	12か月齢飼育用 アイソレータ製作業務	随契 2号 (不適)
頁計			24,954,370	24,823,470	0	24,823,470				24,823,470		
合計			30,976,534	30,418,422	0	30,418,422				30,418,422		

委 託 料 に 関 す る 調

(令和3年度)  
(令和3年6月30日現在)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約締 結方法	契約 期間	支出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	自家用電気工作物 保安管理業務	(一財)中部電気保安協会 掛川営業所	363,000	363,000		363,000	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31	R3.4.23	363,000	自家用電気工作物の保安管理 業務	随契 2号 (不適)
2	夜間警備業務	セコム(株)	336,600	336,600		336,600	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31	R3.5.21 R3.6.21	28,050 28,050	夜間等の機械警備及び火災報知 器監視業務	随契 2号 (不適)
									小計	56,100		
3	清掃等業務	東海ビル管理(株)	355,014	355,014		355,014	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31	R3.5.19 R3.6.18	29,584 29,584	庁舎管理棟及びその周辺の清掃 等業務	随契 1号 (少額)
									小計	59,168		
4	電話設備 保守点検業務	三興電機(株)	166,100	125,400		125,400	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31	R3.5.7	31,350	電話設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
									小計	31,350		
5	合併処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備(株)	451,000	451,000		451,000	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31			合併処理施設(浄化槽)の保守 管理業務	随契 1号 (少額)
6	家畜排水処理施設 管理業務	静岡県西部環境整備(株)	176,000	176,000		176,000	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31			家畜排水処理施設の保守 管理業務	随契 1号 (少額)
7	冷凍空調熱源設備 機器保守管理業務	東海サームエンジニアリング(株)	1,309,000	1,265,000		1,265,000	指名	R3.4.1 ～ R4.3.31			センター内冷凍空調設備、 熱源設備機器(ボイラー)の 保守点検業務	
8	消防設備等 保守点検業務	セルコ(株)	759,412	455,400		455,400	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31			消防設備の保守点検業務	随契 1号 (少額)
9	実験器具洗浄及び 実験補助業務	(株)レンティック中部	1,992,672	1,992,672		1,992,672	指名	R3.4.1 ～ R4.3.31	R3.5.19 R3.6.18	166,056 166,056	実験器具の洗浄、清掃 及び実験補助業務	
									小計	332,112		
10	産業廃棄物収集運搬 及び処分業務	(株)リサイクルクリーン	310,200	310,200		310,200	随契	R3.4.1 ～ R4.3.31	R3.6.21	51,700	産業廃棄物 収集運搬処分業務	随契 1号 (少額)
									小計	51,700		
11	水冷機能付き吸排気 制御装置制作委託	(株)GF技研	1,980,000	1,980,000		1,980,000	随契	R3.6.16 ～ R3.10.29			水冷機能付き吸排気 制御装置制作業務	随契 2号 (不適)
合計			8,198,998	7,810,286	0	7,810,286				893,430		

## 負担金支出調

(令和2年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	菊川地区安全運転管理協会年会費	菊川地区安全運転管理協会	菊川地区安全運転管理協会会則	安全運転管理	28,000	R2.6.8
2	菊川市危険物安全協会会費	菊川市危険物安全協会	菊川市危険物安全協会会則	危険物の取扱及び管理の向上による災害の防止	2,000	R2.6.10
3	フォークリフト特別教育受講料	株式会社掛川自動車学校(掛川クレールン学校)	講習案内	フォークリフト特別教育の受講	17,050	R2.7.13
4	静岡県養豚協会会費	静岡県養豚協会	静岡県養豚協会通常総会決議	種豚の登録、子豚の登記、繁殖登録及び産肉登録	15,000	R2.7.31
5	菊川地区安全運転管理者講習会受講料	(一社)静岡県安全運転管理協会	道路交通法第108条の2第1項	安全運転管理者講習会の受講	4,500	R2.10.26
6	第55回日本水環境学会年会参加負担金	公益財団法人日本水環境学会	第55回日本水環境学会年会開催案内	第55回日本水環境学会年会へ参加	5,000	R3.1.12
7	フォークリフト特別教育受講料	株式会社掛川自動車学校(掛川クレールン学校)	講習案内	フォークリフト特別教育の受講	34,100	R3.1.19
8	日本畜産学会第128回大会参加費	日本畜産学会第128回大会長	日本畜産学会第128回大会開催案内	日本畜産学会第128回大会へ参加	4,000	R3.1.21
9	国産純粋種豚改良協議会令和2年度会費	国産純粋種豚改良協議会	国産純粋種豚改良協議会規約	国産純粋種豚改良協議会の活動参加	50,000	R3.1.22
	計	9 件			159,650	

負 担 金 支 出 調

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

整理	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	第68回日本実験動物学会総会参加費	公益財団法人日本実験動物学会	日本実験動物学会総会開催案内	日本実験動物学会総会へ参加	10,000	R3.5.10
2	菊川市危険物安全協会会費	菊川市危険物安全協会	菊川市危険物安全協会会則	危険物の取扱及び管理の向上による災害の防止	1,000	R3.5.24
3	菊川地区安全運転管理協会年会費	菊川地区安全運転管理協会	菊川地区安全運転管理協会会則	安全運転管理	28,000	R3.6.7
	計	3件			39,000	

(令和2年度)

## 建 築 工 事 調

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	受注者	着 手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財 産台帳	摘要
					当 初 額	変 更 増 減 額	計							
1	行政経営費	鶏エリア 屋外トイレ 更新工事	菊川市 西方 2780	2,310,000	2,310,000	0	2,310,000	随契	(株)牧野組	R2.8.20 R2.10.22	2,310,000	養鶏エリア屋外トイレ 2箇所(男女各1箇所) 更新	済	令達 R2.7.9 支払 R2.11.6 随契1号(少額)
		小計	1	2,310,000	2,310,000	0	2,310,000				2,310,000			
2	資産経営費	成鶏舎(6号) 建具格子 改修工事	菊川市 西方 2780	715,000	715,000	0	715,000	随契	(株)沖開発	R2.6.26 R2.7.28	715,000	成鶏舎(6号) 建具格子改修	—	令達 R2.5.28 支払 R2.8.7 随契1号(少額)
3	資産経営費	消毒庫 両開戸 更新工事	菊川市 西方 2780	2,200,000	2,200,000	0	2,200,000	随契	(株)牧野組	R2.7.10 R2.10.5	2,200,000	消毒庫 両開戸更新	—	令達 R2.5.28 支払 R2.10.21 随契1号(少額)
		小計	2	2,915,000	2,915,000	0	2,915,000				2,915,000			
4	産業革新費	造成豚運動場 複合式脱臭装置 取付工事	菊川市 西方 2780	1,595,000	1,595,000	0	1,595,000	随契	(株)牧野組	R2.11.17 R3.1.4	1,595,000	造成豚運動場 複合式脱臭装置 取付	済	令達 R2.4.1 支払 R3.1.21 随契1号(少額)
5	産業革新費	造成豚運動場 臭気測定装置 設置工事	菊川市 西方 2780	385,000	385,000	0	385,000	随契	協和電工(株)	R3.3.11 R3.3.19	385,000	造成豚運動場 臭気測定装置 設置	済	令達 R2.4.1 支払 R3.4.7 随契1号(少額)
			2	1,980,000	1,980,000	0	1,980,000				1,980,000			
		合計		7,205,000	7,205,000	0	7,205,000				7,205,000			

(令和3年度)

(令和3年6月30日現在)

### 建 築 工 事 調

整理 番号	予算 科目	工事名	工事箇所	当初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産 台帳	摘要
					当初額	変更 増減額	計							
1	資産経営費	ふ卵舎 空調機 更新工事	菊川市 西方2780	2,464,000	2,420,000	0	2,420,000	随契	東海サーモエンジ ニアリング(株)	R3.6.28 R3.10.29	0	ふ卵舎空調機 1台更新	予	令達 R3.4.22 支払 随契1号(少額)
		合計	1件	2,464,000	2,420,000	0	2,420,000				0			

# 公 有 財 産 調

(令和2年度)

区 分	令和2年 3月31日現在		増		減		令和3年 3月31日現在		摘 要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,683,292						千円 1,683,292	
土地	m <sup>2</sup> 90,149.90	1,392,558					m <sup>2</sup> 90,149.90	1,392,558	
立木竹	本 37	1,069					本 37	1,069	
建物	m <sup>2</sup> 8,862.70 9,807.02	267,831				17,143	m <sup>2</sup> 8,862.70 9,807.02	250,688	
工作物	個 89	50,055	1	19,085		934	個 90	68,206	
普通財産	/	47,466	/		/		/	47,466	
土地	m <sup>2</sup> 3,076.52	47,466					m <sup>2</sup> 3,076.52	47,466	
建物	m <sup>2</sup> 208.68 198.72	—					m <sup>2</sup> 208.68 198.72	—	
特許権等	件 2						件 2		
公有財産に 準ずるもの	/	109	/		/		/	109	
電話加入権	件 5	109					件 5	109	
上記の財産 に属さない もの	/		/		/		/		
準特許権等	件 0						件 0		

令和3年度中増減なし

## 借地借家等調

(令和3年6月30日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	道路 敷地	菊川市 西方 3783-7	道路	道路	m <sup>2</sup> 1.44	円 免除	円 免除	令和 3.4.1 ～ 令和 6.3.31	菊川市長	案内 看板
2	土地	道路 敷地	菊川市 西方 2839-8	道路	道路	1.44	免除	免除	令和 3.4.1 ～ 令和 6.3.31	菊川市長	案内 看板
3	土地	水路 敷地	菊川市 西方 2780	水路	水路	33.29	免除	免除	平成 31.4.1 ～ 令和 4.3.31	菊川市長	進入路
4	土地	水路 敷地	菊川市 西方 2780	水路	水路	10.26	免除	免除	平成 31.4.1 ～ 令和 4.3.31	菊川市長	進入路
	計					46.43	0	0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和3年度)

(令和3年6月30現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
債務負担 行 為		(契約日)		円	円	円			
		(契約日)							
長期継続 契 約	電算機器等賃貸借契約	電算機器の賃貸借 (契約日) 令和元年7月1日	9,906,600	1,042,800	2,085,600	2,085,600	2,085,600	2,085,600	521,400
	電子複写機賃貸借契約	電子複写機賃貸借 (契約日) 令和2年4月1日	1,745,700		349,140	349,140	349,140	349,140	349,140

## 行政財産貸付・使用許可調

(令和3年6月30日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は 面積	貸付料又は 使用料		貸付又は使 用許可期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使 用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	行政 財産	土地	菊川市 西方 2780		宅地	電柱7本 支線1条	円 1,500 円 1,500	円 10,500 円 1,500	自令和3年 4月1日 至令和8年 3月31日	西日本電信 電話(株)静岡 支店長	電柱敷
2	"	"	"		宅地	電柱2本 支線3条	1,500 1,500	3,000 4,500	自平成29年 4月1日 至令和4年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
3	"	"	"		宅地	カブツ1本	免除	免除	自令和2年 4月1日 至令和7年 3月31日	菊川市長	工作物 敷地
4	"	"	"		宅地	支線2条	1,500	3,000	自令和2年 4月1日 至令和7年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
			西方 2863-2		雑種 地	電柱2本 支線1条	1,500 1,500	3,000 1,500			
	合計							27,000			

## 普通財産・借受財産等貸付調

(令和3年6月30日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は 面積	貸付料又は 使用料		貸付又は使 用許可期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使 用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	普通 財産	土地	菊川市 西方 2770-3		宅地	電柱1本 支線3条	1,500 1,500	1,500 4,500	自令和2年 4月1日 至令和5年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
2	"	"	"		宅地	支線1条	1,500	1,500	自令和3年 4月1日 至令和6年 3月31日	中部電力パワ ーグリッド(株) 掛川営業所長	電柱敷
3	"	"	"		宅地	電柱2本 支線1条	1,500 1,500	3,000 1,500	自平成31年 4月1日 至令和4年 3月31日	西日本電信電 話(株)静岡 支店長	電柱敷
	合計							12,000			

## 職員公舎管理状況調

(令和3年6月30日現在)

整理 番号	所在地	建築 年月	構 造	管理戸 (室)数A	入居戸 (室)数B	Bの内他事務所 職員入居戸(室)数	空屋戸(室) 数A-B	摘要
1	菊川市 西方2770-3	S 62 ・ 4	木造平屋 アスファルト シングル葺	3	2	0	1	空家年月日 H22.6. 1~
	計			3	2	0	1	

## 備品・図書調

(令和 2年度)

区 分	令和 2年 3月31日 現在	増		減		令和 3年 3月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
01-02 台類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
01-03 いす類	6	( 0) 0	0	( 0) 0	0	6
01-04 収納保管庫類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
01-06 印字器具類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
01-10 印判類	5	( 0) 0	0	( 0) 0	0	5
01-13 厨房器具類	3	( 0) 0	0	( 0) 1	0	2
01-14 冷暖房器具類	3	( 0) 0	0	( 0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	14	( 0) 0	0	( 0) 0	0	14
02-02 情報伝達機器類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
03-01 撮影機器類	7	( 0) 0	0	( 0) 0	0	7
03-02 観察・観測用光学機器類	35	( 0) 0	0	( 0) 2	0	33
03-03 視覚用再生等機器類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
03-99 その他の写真光学視覚機器類	2	( 0) 0	0	( 0) 1	0	1
04-01 診療・診断用機器類	20	( 0) 0	0	( 0) 0	0	20
04-02 衛生検査用機器類	5	( 0) 0	0	( 0) 0	0	5
04-06 獣医用機器類	28	( 0) 0	0	( 0) 0	0	28
04-07 防疫機器類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	4	( 0) 0	0	( 0) 0	0	4

備品・図書調

(令和2年度)

区分	令和2年 3月31日 現在	増		減		令和3年 3月31日 現在
		数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
05-01 強度（物性）試験計測機器類	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
05-02 波動・熱試験計測機器類	1	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	1
05-03 電気試験計測機器類	4	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	4
05-04 分析化学機器類	58	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	58
05-05 生物化学機器類	5	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	5
05-06 環境化学機器類	9	( 0 ) 1	605,000	( 0 ) 0	0	10
05-08 度量衡測定機器類	19	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	19
05-09 天体気象観測機器類	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
05-99 その他の試験計測機器類	91	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	91
06-02 金属加工用機器類	4	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	4
06-04 電気電子機器類	14	( 0 ) 1	251,680	( 0 ) 0	0	15
06-99 その他の諸機器類	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
07-01 農産用機器類	18	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	18
07-03 畜産用機器類	65	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	65
08-01 車両類	15	( 0 ) 0	0	( 1 ) 2	0	13
09-01 標本美術品	1	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	1
10-05 生物物理化学用器具類	4	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	4
50-01 図書	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
計	462	( 0 ) 2	856,680	( 1 ) 6	0	458

備品・図書調

(令和3年度)

区分	令和3年 3月31日 現在	増		減		令和3年 6月30日 現在
		数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
01-02 台類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
01-03 いす類	6	( 0) 0	0	( 0) 0	0	6
01-04 収納保管庫類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
01-06 印字器具類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
01-10 印判類	5	( 0) 0	0	( 0) 0	0	5
01-13 厨房器具類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
01-14 冷暖房器具類	3	( 0) 0	0	( 0) 0	0	3
01-99 その他の庁用器具類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
02-01 情報処理機器類	14	( 0) 0	0	( 0) 0	0	14
02-02 情報伝達機器類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
03-01 撮影機器類	7	( 0) 0	0	( 0) 0	0	7
03-02 観察・観測用光学機器類	33	( 0) 0	0	( 0) 0	0	33
03-03 視覚用再生等機器類	2	( 0) 0	0	( 0) 0	0	2
03-99 その他の写真光学視覚機器類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	20	( 0) 0	0	( 0) 0	0	20
04-02 衛生検査用機器類	5	( 0) 0	0	( 0) 0	0	5
04-06 獣医用機器類	28	( 0) 0	0	( 0) 0	0	28
04-07 防疫機器類	1	( 0) 0	0	( 0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	4	( 0) 0	0	( 0) 0	0	4

備品・図書調

(令和3年度)

区分	令和3年 3月31日 現在	増		減		令和3年 6月30日 現在
		数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
05-01 強度（物性）試験計測機器類	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
05-02 波動・熱試験計測機器類	1	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	1
05-03 電気試験計測機器類	4	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	4
05-04 分析化学機器類	58	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	58
05-05 生物化学機器類	5	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	5
05-06 環境化学機器類	10	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	10
05-08 度量衡測定機器類	19	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	19
05-09 天体気象観測機器類	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
05-99 その他の試験計測機器類	91	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	91
06-02 金属加工用機器類	4	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	4
06-04 電気電子機器類	15	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	15
06-99 その他の諸機器類	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
07-01 農産用機器類	18	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	18
07-03 畜産用機器類	65	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	65
08-01 車両類	13	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	13
09-01 標本美術品	1	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	1
10-05 生物物理化学用器具類	4	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	4
50-01 図書	3	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	3
計	458	( 0 ) 0	0	( 0 ) 0	0	458

## 主 要 備 品 調

(令和3年6月30日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	5-4	分光分析機器	近赤外線分光分析計 ファイバースコープ付き	豚枝肉の非破壊成分調査 (20 日)	H10.3	円 17,797,500
2	5-4	クロマトグラフ	高速液体クロマト 3タイプ検出機能	アミノ酸等不揮発性物質測定 (30 日)	S62.10	11,040,000
3	5-5	アミノ酸化学機器	アミノ酸分析計	豚肉の旨み成分の分析(50 日)	H4.3	10,197,000
4	5-5	その他の生物化学機器	DNA シーケンサー	DNA 塩基配列等の解析 (120 日)	H17.5	9,922,500
5	3-2	顕微鏡	走査型電子顕微鏡 倍率 35~200,000	精子、卵子、組織構造観察 (30 日)	S63.2	8,537,000
6	5-4	分光分析機器	原子吸光分光光度計分 析条件設定記憶可能	飼料等の無機物質の測定 (30 日)	S62.10	8,400,000
7	5-4	分光分析機器	原子吸光分析装置 偏光ゼーマン原子吸光光度計	堆肥、汚水の無機塩類の測定 (50 日)	H7.2	8,352,270
8	7-3	環境整備用機器	鶏糞発酵処理装置 内容量 5~6 立方メートル	鶏糞の発酵処理 (120 日)	S62.3	8,320,000
9	3-1	その他の撮影機器	スキャニングスコープ P スコープ、F スコープ 付き	豚生体の産肉性調査 (60 日)	H10.3	6,726,300
10	5-4	クロマトグラフ	イオンクロマト装置 <sup>1</sup> 流 路 <sup>2</sup> カラムサブレッサー方式	汚水のイオン分析 (30 日)	H6.10	6,077,000
11	3-2	顕微鏡	マニピュレータ顕微鏡	豚クローン胚作出 (30 日)	H14.9	5,829,516
12	3-2	顕微鏡	マニピュレータ顕微鏡	豚クローン胚作出 (30 日)	H16.12	5,397,000
13	5-5	その他の生物化学機器	リアルタイム PCR システム	迅速な DNA 鑑定 (60 日)	H18.6	4,706,100
14	7-3	その他の畜産用機器	3 ヶ月齢飼育アイソレータ 特注 (製作業務委託成果品)	無菌動物の飼育 (180 日)	H31.3	4,492,800
15	5-4	クロマトグラフ	ガスクロマトグラフシステム 2タイプ検出機能	臭気分析 (90 日)	H5.3	4,490,800
16	5-99	試験実験用付属機器	発酵攪拌装置スポット脱 臭装置 1.6L/分	アンモニア発生量の抑制 (50 日)	H13.3	4,462,500
17	5-4	クロマトグラフ	ガスクロマトグラフシステム FID・オートサンプリング付き	脂肪酸の測定 (60 日)	H25.2	4,176,900
18	5-4	分光分析機器	分光分析機器 フーリエ変換赤外分光光度計	堆肥・汚水乾物の有機物構造解析 (30 日)	H4.2	4,145,750
19	5-4	加熱(冷却)蒸発装置	プログラムフリーザー プラー社製 kryo-10	精液、受精卵の凍結保存 (60 日)	S62.3	3,900,000
20	7-1	運搬用機器	トラクター 55PS	ほ場の攪拌処理 (30 回)	H4.10	3,598,000

(令和2年度)

## 動物管理状況調

品名	区分 品種	令和2年3月31日 現在 頭羽数	増				減					頭羽数 差引	摘要	
			分類換	購入	管理換 その他	計	分類換 売却		死亡	管理換 その他	計			
							出生	購入						
種豚	ラントレース	頭 13	頭 2	頭 0	頭 0	頭 2	頭 3	頭 0	頭 0	頭 2	頭 5	頭 10	♂ 6	♀ 4
	大ヨークシャー	27	9	0	0	9	4	0	0	2	6	30	♂ 10	♀ 20
	F1(雑種)	75	28	0	0	28	37	0	0	3	40	63	♂ 24	♀ 39
	デュロック	69	42	0	0	42	38	0	0	8	46	65	♂ 18	♀ 47
	金華豚	17	2	0	0	2	4	0	0	0	4	15	♂ 6	♀ 9
	その他	100	54	0	0	54	0	0	0	51	51	103	♂ 42	♀ 61
	計	301	137	0	0	137	86	0	0	66	152	286	♂ 106	♀ 180
	鶏	卵用鶏	羽 500	羽 500	羽 0	羽 0	羽 500	羽 0	羽 0	羽 33	羽 473	羽 506	羽 494	♂ 0
	在来鶏	330	787	0	0	787	0	0	48	362	410	707	♂ 114	♀ 593
	計	830	1,287	0	0	1,287	0	0	81	835	916	1,201	♂ 114	♀ 1,087

(令和3年度)

## 動物管理状況調

(令和3年6月30日現在)

品名	区分 品種	令和3年3月31日 現在 頭羽数	増				減					頭羽数 差引	摘要	
			分類換	購入	管理換 その他	計	分類換 売却		死亡	管理換 その他	計			
							出生	購入						
種豚	ラントレース	頭 10	頭 5	頭 0	頭 0	頭 5	頭 3	頭 0	頭 0	頭 0	頭 3	頭 12	♂ 6	♀ 6
	大ヨークシャー	30	3	0	0	3	0	0	0	0	0	33	♂ 10	♀ 23
	F1(雑種)	63	9	0	0	9	9	0	0	0	9	63	♂ 23	♀ 40
	デュロック	65	3	0	0	3	4	0	0	0	4	64	♂ 19	♀ 45
	金華豚	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	16	♂ 6	♀ 10
	その他	103	5	0	0	5	0	0	0	16	16	92	♂ 35	♀ 57
	計	286	26	0	0	26	16	0	0	16	32	280	♂ 99	♀ 181
	鶏	卵用鶏	羽 494	羽 0	羽 0	羽 0	羽 0	羽 0	羽 0	羽 11	羽 9	羽 20	羽 474	♂ 0
	在来鶏	707	67	0	0	67	0	0	23	3	26	748	♂ 108	♀ 640
	計	1,201	67	0	0	67	0	0	34	12	46	1,222	♂ 108	♀ 1,114

生産物受払調

品名 (単位)		豚				豚精液				鶏卵				
		31年度 a	令和2年度 b	令和3年度 6月30日現在	差 b-a	31年度 a	令和2年度 b	令和3年度 6月30日現在	差 b-a	31年度 a	令和2年度 b	令和3年度 6月30日現在	差 b-a	
区分	種豚・種鶏(頭・羽)(ア)	頭 195	180	181	-15	頭 106	106	99	0	羽 500	494	474	-6	
受 高	前年度繰越高	頭 481	564	658	83	ml 0	0	0	0	個 3,756	1,516	1,446	-2,240	
	本年度生産高(イ)	頭 1,257	1,232	277	-25	ml 61,500	59,900	14,300	-1,600	個 313,949	263,824	70,760	-50,125	
	計	頭 1,738	1,796	935	58	ml 61,500	59,900	14,300	-1,600	個 317,705	265,340	72,206	-52,365	
単位数(イ/ア)		6.45	6.84	1.53	0.39	580.19	565.09	144.44	-15.1	627.9	534.06	149.28	-93.84	
同前年比(%) (b-a)/a×100					6				-2.6				-14.9	
払 高	売払数量	頭 885	888	370	3	ml 61,500	59,900	14,300	-1,600	個 315,200	263,300	69,020	-51,900	
	売払金額	円 24,600,941	27,458,842	10,380,335	2,857,901	円 2,152,500	2,096,500	500,500	-56,000	円 2,312,940	1,373,153	625,272	-939,787	
	非売品 数量	分類換	頭 289	250	51	-39	ml 0	0	0	0	個 989	594	0	-395
		管理換 その他	頭 0	0	0	0	ml 0	0	0	0	個 0	0	0	0
	計	頭 1,174	1,138	421	-36	ml 61,500	59,900	14,300	-1,600	個 316,189	263,894	69,020	-52,295	
残高又は繰越数量		頭 564	658	514	94	ml 0	0	0	0	個 1,516	1,446	3,186	-70	
摘 要	前年度調定 当年度払出額	0	0	0		0	0	0		0	0	0		
	前年度払出 当年度調定額	0	0	0		0	0	0		158,229	201,320	166,191		
	当年度調定 翌年度払出額	0	0	R3.6調定 R3.7払出額 89,700		0	0	R3.6調定 R3.7払出額 3,500		0	0	0		
	当年度払出 翌年度調定額	0	0	R3.6払出 R3.7調定額 1,693,377		0	0	R3.6払出 R3.7調定額 0		201,320	166,191	216,187		
当年度調定額		24,600,941	27,458,842	8,776,658		2,152,500	2,096,500	504,000		2,269,849	1,408,282	575,276		

(令和3年6月30日現在)

品名 (単位)		種卵				鶏				計				
		31年度 a	令和2年度 b	令和3年度 6月30日現在	差 b-a	31年度 a	令和2年度 b	令和3年度 6月30日現在	差 b-a	31年度 a	令和2年度 b	令和3年度 6月30日現在	差 b-a	
種豚・種鶏(頭・羽)(ア)		羽 290	593	640	303	羽 330	707	748	377					
受 高	前年度繰越高	個 0	0	0	0	羽 0	414	87	414					
	本年度生産高(イ)	個 5,380	4,400	1,200	-980	羽 3,404	2,861	1,030	-543					
	計	個 5,380	4,400	1,200	-980	羽 3,404	3,275	1,117	-129					
単位数(イ/ア)		18.55	7.42	1.88	-11.13	10.32	4.05	1.38	-6.27					
同前年比(%) (b-a)/a×100					-60				-60.8					
払 高	売払数量	個 5,380	4,400	1,200	-980	羽 2,475	2,150	480	-325					
	売払金額	円 80,700	66,000	18,000	-14,700	円 524,850	460,100	102,720	-64,750	円 29,671,931	31,454,595	11,626,827	1,782,664	
	非売品 数量	分類換	個 0	0	0	0	羽 492	1,005	87	513				
		管理換 その他	個 0	0	0	0	羽 23	33	2	10				
	計	個 5,380	4,400	1,200	-980	羽 2,990	3,188	569	198					
残高又は繰越数量		個 0	0	0	0	羽 414	87	548	-327					
摘 要		前年度調定 当年度払出額	前年度調定 当年度払出額	前年度調定 当年度払出額		前年度調定 当年度払出額	前年度調定 当年度払出額	前年度調定 当年度払出額		前年度調定 当年度払出額	前年度調定 当年度払出額	前年度調定 当年度払出額		
		0	0	0		0	0	0		0	0	0		
		前年度払出 当年度調定額	前年度払出 当年度調定額	前年度払出 当年度調定額		前年度払出 当年度調定額	前年度払出 当年度調定額	前年度払出 当年度調定額		前年度払出 当年度調定額	前年度払出 当年度調定額	前年度払出 当年度調定額		
		0	0	0		0	0	0		158,229	201,320	166,191		
		当年度調定 翌年度払出額	当年度調定 翌年度払出額	R3.6調定 R3.7払出額		当年度調定 翌年度払出額	当年度調定 翌年度払出額	R3.6調定 R3.7払出額		当年度調定 翌年度払出額	当年度調定 翌年度払出額	R3.6調定 R3.7払出額		
		0	0	6,000		0	0	62,060		0	0	161,260		
		当年度払出 翌年度調定額	当年度払出 翌年度調定額	R3.6払出 R3.7調定額		当年度払出 翌年度調定額	当年度払出 翌年度調定額	R3.6払出 R3.7調定額		当年度払出 翌年度調定額	当年度払出 翌年度調定額	R3.6払出 R3.7調定額		
		0	0	0		0	0	0		201,320	166,191	1,909,564		
当年度調定額		80,700	66,000	24,000		524,850	460,100	164,780		29,628,840	31,489,724	10,044,714		